



Cisco TelePresence
MX200 G2
MX300 G2
MX700
MX800
SX10
SX20
SX80

CE 8.0

ユーザ
ガイド

D1534501 ユーザガイド
Cisco TelePresence SX10, SX20, MX200 G2,
MX300 G2, MX700, MX800, SX80
作成日: 2015年11月(CE8.0)
All contents © 2010-2015
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

このユーザ ガイドの内容

ビデオ会議:概要

ベスト プラクティス	4
タッチ スクリーンの各部	5
自分の資格情報でのシステムへのログイン	6

ビデオ コール

連絡先リストから発信する	8
連絡先リスト エントリを編集して発信する	9
名前を使用した発信	10
IP アドレスを使用した発信	11
番号を使用した発信	12
着信	13
通話中に別の通話に応答する	14
転送	15
打診と転送	16
通話の切断	17
マイクの機能とプライバシーについて	18
通話を保留にする/保留中の通話を再開する	19
帯域を変更する	20
応答不可を有効にする	21
スタンバイを有効にする	22
通話中にキーパッドを表示する	23
既存の通話に参加者をさらに追加する	24
既存の通話に着信通話を追加する	25
会議の参加者リストを表示する	26
電話会議レイアウトの管理	27
プレゼンターの固定	28
参加者を通話から切断する	29

Intelligent Proximity

Intelligent Proximity	31
Intelligent Proximity のアクティブ化/非アクティブ化	32

コンテンツの共有

通話中にプレゼンテーションを開始/停止する	34
通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更	35
通話中ではない場合のプレゼンテーション	36

予定された会議

会議リストの表示	38
スケジュールされたミーティングに参加	39
並行会議	40

連絡先

ディレクトリ	42
発信履歴	43
お気に入り	44
通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する	45

カメラ

カメラ設定の表示	47
カメラ位置プリセットの追加	48
既存のカメラ位置プリセットの編集	49
スピーカートラッキング	50
自分のカメラを操作する	51
自画面の管理	52
自画面 PiP のサイズを変更する	53
自画面 PiP の移動	54
他の参加者のカメラの操作	55

設定

設定にアクセスするには	57
着信音とサウンド	58
カメラ操作	59
メインソースの選択	60
ディスプレイ	61
言語の選択	62
システム情報	63
コール ステータス	64
診断モード	65
システムの再起動	66
管理者	67
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[トラッキング (Tracking)]	68
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[日付と時刻の設定 (Set Date and Time)]	69
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[通話の詳細 (Call Details)]	70
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[プロビジョニングウィザード (Provisioning Wizard)]	71
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[マルチポイントモード (Multipoint Mode)]	72
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[ペアリング (Pairing)]	73
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[IPとVLAN - コーデック (IP & VLAN, Codec)]	74
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[ネットワーク状態 - コーデック (Network Status Codec)]	75
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[IPとVLAN - タッチ (IP & VLAN, Touch)]	76
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[ネットワーク状態 - タッチ (Network Status Touch)]	77
[管理者設定 (Administrator Settings)] - [SIP]	78
[管理者設定 (Administrator Settings)] - [H323]	79
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[EMCレジリエンスモード (EMC Resilience Mode)]	80
[管理者設定 (Administrator Settings)] -	
[初期設定へのリセット (Factory Reset)]	81

この目次のすべての項目はハイパーリンクとなっており、項目をクリックすると対応する記事に移動します。

章間で移動するには、サイドバーのいずれかのアイコンをクリックしてください。

注: このユーザ ガイドで説明する機能の一部はオプションであるため、ご使用のシステムには存在しない場合があります。



ビデオ会議： 概要

D1534501 ユーザガイド
Cisco TelePresence SX10、SX20、MX200 G2、
MX300 G2、MX700、MX800、SX80
作成日：2015年11月(CE8.0)
All contents © 2010-2015
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

ベスト プラクティス



効果的なビデオ会議では、出席者の距離がどれだけ離れていても、対面式の会議を行えます。ビデオ会議であっても、会議であることには変わりありません。通常のマナーや、服装を心がけるようにしてください。

全般

- ユニットの設定を [自動応答 (Automatic Answer)] に設定することを検討してください。
- 必要に応じて、ビデオ システムの動作を確認してください。

会議室において

- すべての発表の音声拾われるよう、マイクをテーブルの前方に設置します。システムの正面から 2 m (6.5 フィート) 以上離し、テーブルの正面からは 30 cm (1 フィート) 以上離します。平らな面に設置してください。
- 指示用のマイクは、ビデオ システムから離れた場所に向ける必要があります。
- マイクは、発表する出席者から常に見える場所に置いておくようにしておきます。
- 常に、テーブルに置かれたコンピュータやプロジェクタのファンなどのノイズ源から離れた場所にマイクを置いてください。これら

のノイズ源からの雑音は、遠隔地の出席者には、予想以上に大きく聞こえます。

- ドキュメント カメラまたはホワイトボード カメラを使用する場合は、カメラが会議のリーダーに近くなるように、または指定されたコントローラに近くなるように参加者を配置します。
- ホワイトボードを使用する場合は、ホワイトボードがメイン カメラと専用のホワイトボード カメラから見えるようにすると、リモート参加者にとってより良い会議に見えます。放送会社は通常、このようにしてプレゼンターが実際に同じ部屋にいるように視聴者に見せています。
- すべてのペリフェラルは、1 人の出席者が手を伸ばして、会議の最中にポイント、ディスプレイ変更、記録などの操作を行える場所に置いてください。
- 最も自然なミーティング環境を確保するには、受信モニタの上部中央にカメラを置いてください (可能な場合)。遠くにいる会議の相手とアイ コントクトを行えるよう、カメラは、会議出席者に直接向ける必要があります。これは、ビデオ システムの自画面機能を使用して確認してください。自画面には、遠隔地の相手がシステム (発信ビデオ) から見ることができる内容が表示されます。

- コンテンツを共有する場合、通常はデュオ ビデオを使用します。つまり、2 本のビデオ ストリームを使用します。プレゼンテーション用とプレゼンター (またはプレゼンターグループ) 用です。小規模のシステムの場合、プレゼンテーションとプレゼンターのどちらを表示するかを選択しなければならぬことがあります。
- デュオ ビデオの場合、注意が必要な点があります。デュオ ビデオでは、多くの場合、画面の横半分はプレゼンテーション、残りの横半分はプレゼンターが表示されます。すべてリモート モニタで表示される場合、プレゼンテーションに背中を向けるのではなく、プレゼンテーションに目を向けている印象を与えるようにしてください。確信が持てない場合は、カメラを真っ直ぐに見つめて、このような状況を回避してください。

使いやすさ

- 会議出席者がダイヤル、プレゼンテーションの追加、および通話中にその他の機能を使用できるよう、室内にポスター、テーブル Tent、またはその他のクイック リファレンス ガイドを置くことを検討してください。

その他のヒント

カメラ プリセットの使用

Cisco TelePresence システムでは、ズームおよびカメラの向き (パンと傾斜) を事前定義できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズーム アウトすることを忘れないでください。

スピーカーの音量

オーディオ システムでは、モニタに内蔵されたスピーカか、Cisco Digital Natural Audio Module を使用します。システムによっては、モニタのリモートを使用してボリュームを調整し、デフォルトのボリュームを設定できます。

明るさのコントロール

モニタの明るさや色などの設定を調整するには、モニタのリモート コントロールを使用してください。会議室の条件に合わせて、モニタを調整してください。シスコのモニタには、非常に簡単に使用できる、画面上のメニューがあります。このようにモニタを設定する方法については、該当するユーザ ガイドと管理マニュアルを参照してください。

タッチ スクリーンの各部



左上隅をタップして、[応答不可 (Do Not Disturb)]機能や [スタンバイ (Standby)] 機能をアクティブ/非アクティブにしたり、[設定 (Settings)] にアクセスしたりできます。

? をタップすると、ヘルプ デスクへの連絡またはアクセスが可能です (該当する場合)。

カメラ アイコンをタップすると、自画面とカメラ設定がアクティブになります。

右上に時刻が表示されます。



[共有 (Share)] をタップすると、コンテンツの共有とプレゼンテーションを開始することができます。

マイク ボタンを押すと、マイクがミュート/ミュート解除されます。

ダイヤル パッドを呼び出すには [ダイヤル (Dial)] をタップします。

[連絡先 (Contacts)] をタップすると、[お気に入り (Favorites)]、[ディレクトリ (Directory)]、[発着信履歴 (Recents)] などを含む、連絡先のリストが呼び出されます。

次回予定されている会議のリストを呼び出すには [会議 (Meetings)] をタップします。

ボイス メール システムを呼び出すには [メッセージ (Messages)] をタップします (該当する場合)。

スピーカーの音量を下げるには音量ボタンの左側を押し続け、音量を上げるには右側を押し続けます。



タッチ スクリーンをタップすると、システムのスリープ状態を解除できます。



ボタンをタップして機能をアクティブにします。



スマートフォンのようにリストをスクロールできます。

応答不可について

[応答不可 (Do Not Disturb)] に設定すると、着信音はミュートになり、他者からの着信は不在着信として表示されます。

ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

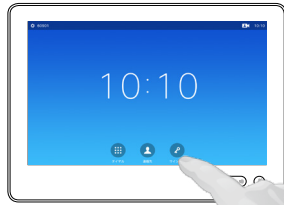
デフォルトでは、[応答不可 (Do Not Disturb)] には 60 分のタイムアウトがあります (この後、システムは通常動作に戻りますが、ビデオ サポート チームによって異なる設定に変更されている場合があります)。

注: ビデオ システムによって、ここに示されているすべてのアイコンが表示される場合と、一部のアイコンが表示されない場合があります。このユーザー ガイドで説明する機能のいくつかは、特定の市場ではオプションであるため、ご使用のシステムには存在しない場合があります。

自分の資格情報でのシステムへのログイン



1



[サインイン (Sign In)] をタップします。

2



資格情報を入力して [サインイン (Sign In)] をタップします。

3

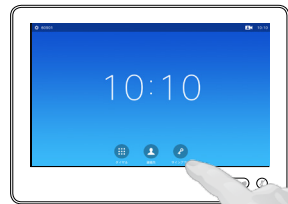


選択できるプロフィールから自分のプロフィールをタップします。

4

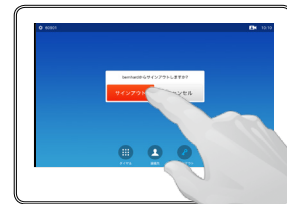
システムが正常にサインインしたことを確認します。これで自分宛ての着信が可能になります。

5



サインアウトするには、[サインアウト (Sign-out)] をタップします。

6



確認メッセージが表示されます。

ホットデスクについて

会議室や静音室にある、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) で実行中のビデオ システムには、自身の資格情報でログインすることができます。

こうすると、CUCM は、自分宛ての着信をすべてそのビデオ システムにルーティングします。



ビデオ コール

D1534501 ユーザ ガイド
Cisco TelePresence SX10、SX20、MX200 G2、
MX300 G2、MX700、MX800、SX80
作成日: 2015 年 11 月 (CE8.0)
All contents © 2010-2015
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

発信 連絡先リストから発信する



① [連絡先 (Contacts)] をタップします。



② 特定のリスト ([お気に入り (Favorites)], [ディレクトリ (Directory)], または [発着信履歴 (Recents)]) で通話相手を検索するには、そのリストをタップし (a)、下へスクロールして (b) エントリを探します。



③ または、[検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドをタップします。仮想キーボードが呼び出されます。



④ 名前、番号、または IP アドレスをキー入力します。入力と同時に、一致するエントリが表示されます。



⑤ 拡張数字モードを使用できます。このモードには、特殊文字が含まれています。英数字モードと拡張数字モードを切り替えるには、キーボードの左下にあるキーをタップします。



⑥ 発信する準備ができたなら、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。

連絡先のリストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

[お気に入り (Favorites)] これらの連絡先は、自分でそこに追加したものです。これらのエントリは通常、頻繁に通話する人や、迅速かつ便利な方法でよくアクセスする必要がある人です。

[ディレクトリ (Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

[発着信履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

[発着信履歴 (Recents)] のリストは、プライバシーを保護するためにクリアすることができます。[\[発着信履歴\]、43 ページ](#)を参照してください。

次のオプションが適用されます。

- 名前、番号、または IP アドレスをキー入力できます。これにより、すべてのリストが検索されます。
- タブをタップしてリストをスクロールするか、名前または番号をキー入力できます。検索はそのリストに制限されます。
- [お気に入り (Favorites)] のリストにエントリを追加したり、通話前にエントリを編集したり、帯域を変更したり、エントリを [発着信履歴 (Recents)] から削除したりすることができます。

発信 連絡先リスト エントリを編集して発信する

エントリ編集について

連絡先リストの入力方法については、前のページを参照してください。

発信する前に、連絡先リストのいずれかのエントリを編集する必要がある場合があります。正常に完了するために、プレフィックスまたはサフィックスを追加したり、エントリを変更したりする必要があります。



発信 名前を使用した発信



① [ダイヤル (Dial)] をタップして、数字のダイヤルパッドを呼び出します。



② [キーボード (Keyboard)] (⌨) をタップすると仮想キーボードを呼び出します。



③ 名前をキー入力します。入力と同時に、一致するエントリが表示されます。



④ 拡張数字モードを使用できます。このモードには、特殊文字が含まれています。

英数字モードと拡張数字モードを切り替えるには、キーボードの左下にあるキーをタップします。



⑤ 発信する準備ができたなら、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。

発信について

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力します。

以前に通話したことがある相手は、(リストをクリアするまで)[発信履歴 (Recents)] リストに表示されるため、そのいずれも [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

内線での通話。通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりするために、ときには、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[キーパッド (Keypad)] (このボタンは、発信するとすぐに表示されます) をタップします。

IP アドレスを使用した発信

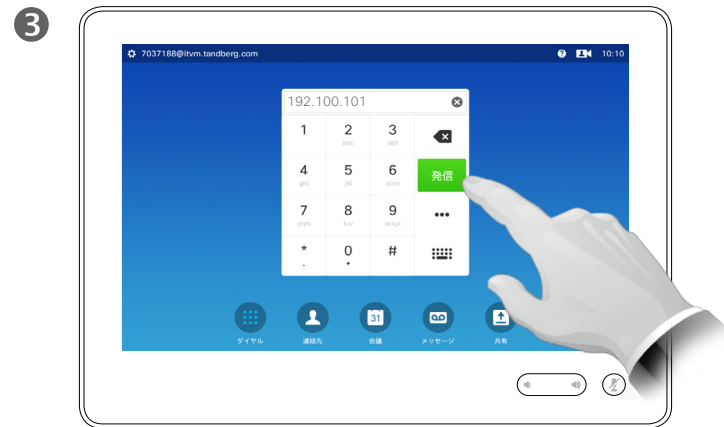


[ダイヤル (Dial)] をタップして、数字のダイヤルパッドを呼び出します。



IP アドレスを入力します。

IP アドレスで使用するドットを入力するには、[*] を長押しします。



発信する準備ができたなら、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。

発信について

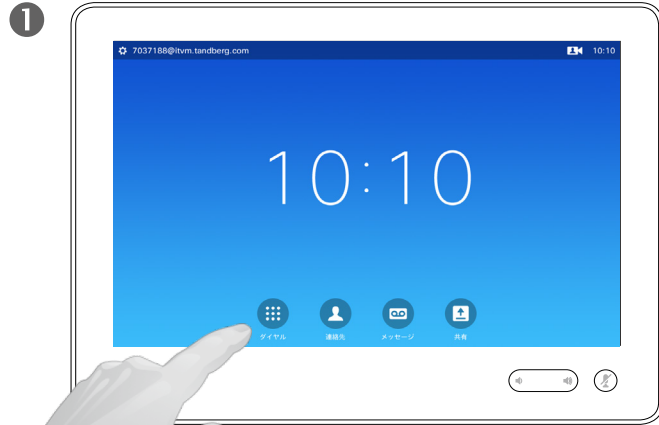
連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力します。

以前に通話したことがある相手は、(リストをクリアするまで)[発信履歴 (Recents)] リストに表示されるため、そのいずれも [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

内線での通話。通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりするために、ときには、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[キーパッド (Keypad)] (このボタンは、発信するとすぐに表示されません) をタップします。

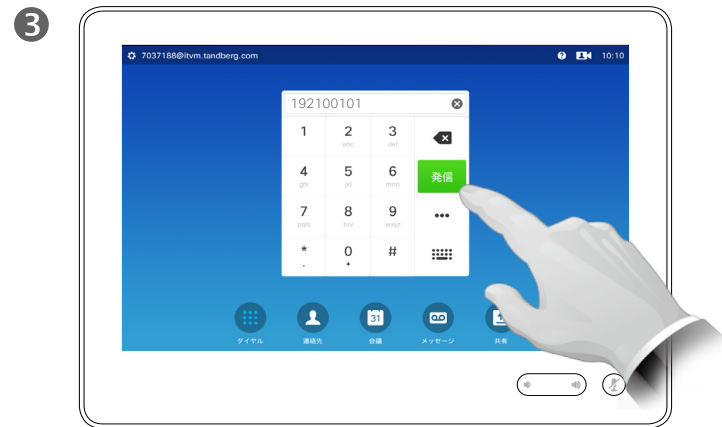
発信 番号を使用した発信



[ダイヤル (Dial)] をタップして、数字のダイヤルパッドを呼び出します。



番号を入力します。



発信する準備ができたなら、緑色の [発信 (Call)] ボタンをタップします。

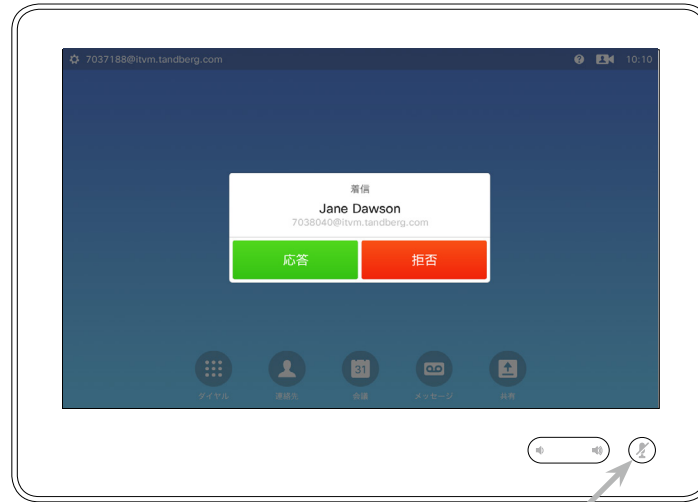
発信について

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力します。

以前に通話したことがある相手は、(リストをクリアするまで)[発信履歴 (Recents)] リストに表示されるため、そのいずれも [お気に入り (Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

内線での通話。通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりするために、ときには、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[キーパッド (Keypad)] (このボタンは、発信するとすぐに表示されません) をタップします。



着信に対する自動応答（[自動応答 (Auto Answer)]）が許可されている場合は、システムのマイクをミュートにしてプライバシーを守ることができます。

このシンボルが表示されている場合、マイクはミュートにされています。マイクをミュート/ミュート解除するには、シンボルをタップします。

着信があった場合

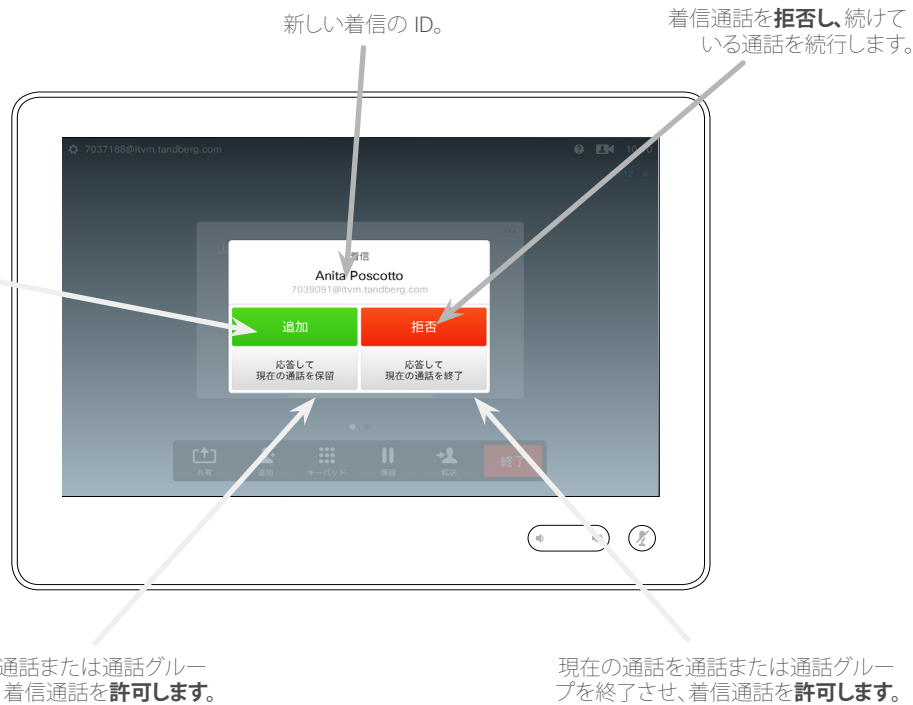
- 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- 通話を拒否した場合、ビジーであるという情報が発信者に送信されます。
- 通話を無視した場合、発信者には、自分が不在である（通話を取らなかった）場合と同じように見えます。
- 着信に自動的に応答するように、システムを設定することができます（[自動応答 (Auto Answer)]）。これについては、[「管理者設定 \(Administrator Settings\)」](#) - [「通話の詳細 \(Call Details\)」](#)、70 ページで説明します。ビデオ サポート チームがこのメニューをパスワードで保護している場合があります。
- [自動応答 (Auto Answer)] をアクティブにした場合、マイクをミュートにしてプライバシーを守ることができます。これは、毎回手動で設定する必要があります。

着信 通話中に別の通話に応答する

オプションについて

[追加(Add)]:システムに MultiSite オプションが搭載されている場合は、着信通話を既存の通話にマージできます。

MultiSite オプションがインストールされていないシステムでも着信をマージすることはできませんが、この場合は音声のみとなります(ビデオは表示されません)。



特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。



通話の転送 転送



転送について

通話を転送する場合は、無人転送と打診転送という基本的な 2 つのオプションがあります。

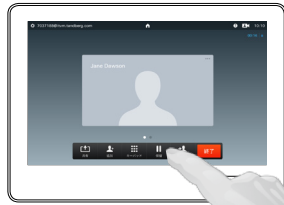
このページでは、無人転送について説明します。無人転送では、転送前に転送先に打診することなく、通話を転送することができます。

先に転送先に打診する場合は、スワップ機能 (詳細については、次のページを参照) を使用してから転送します。

通話の転送 打診と転送



①



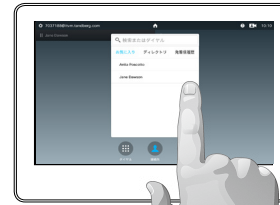
通話状態である
とします。[保留
(Hold)]をタッ
プします。

②



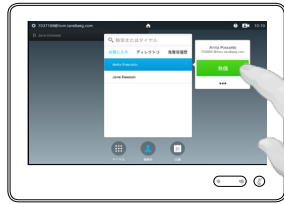
[+ 新規発信 (+ Place New
Call)]をタップするか、[再開
(Resume)]をタップして元の
通話相手に戻ります (操作を元
に戻します)。

③



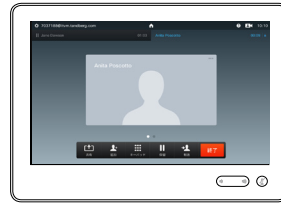
通常の方法
で、発信先
を探します。

④



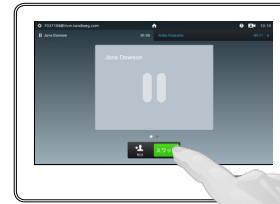
通常の方法で発信します。

⑤



これで、元の相手先との通話
を保留にしたまま、新しい通
話が開始されます。

⑥



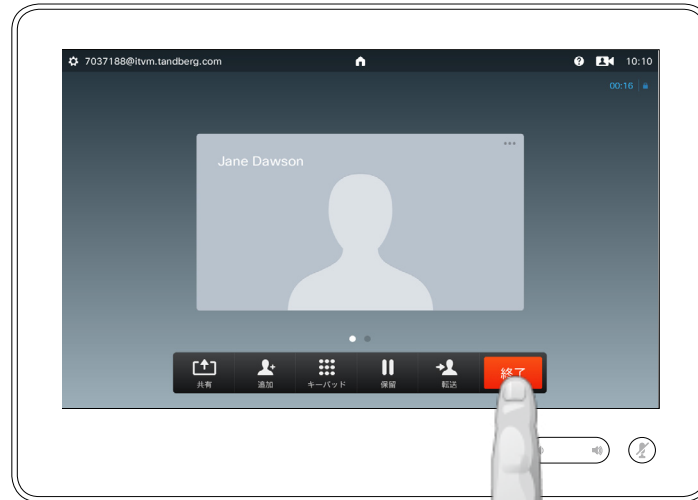
相手間で切り
替えるには [ス
ワップ (Swap)]
をタップし、
両者を接続
して自分は通話を終了するには、[転送
(Transfer)]をクリックします。

打診と転送について

この機能を使用して、2 人との通話中
に、1 人だけ話すことができます。

通話の相手を切り替えたり、通話を終
了したりするときに通話先の 2 人を接
続することができます。

終了 通話の切断



通話を切断するには、[終了 (End)] をタップします。



切断について

通話中に [終了 (End)] をタップすると、通話から切断されます。2 つの相手のみと通話中の場合、これにより、通話が終了されます。

複数の参加者がいる電話会議では、[終了 (End)] をタップすると、自分が通常の参加者である場合にのみ、自分の参加が終了されます。

自分が会議のホスト (会議を開始したユーザ) である場合は、[終了 (End)] をタップすると会議全体が終了します。

マイクの機能とプライバシーについて

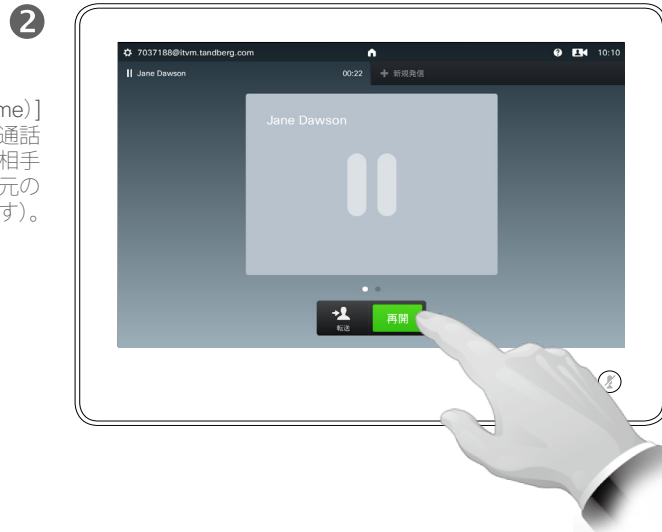


[ミュート (Mute)] ボタンには、マイクが音声を発信しているかミュートされているかを示す LED があります。



マイクは、緑色の LED が点灯している場合のみ音声を発信します。

通話を保留にする/保留中の通話を再開する



保留について

通常、相手を保留にする操作は、他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、打診が必要な場合や、ビデオ送信の停止などを含むミュートの代わりとしても使用できます。



帯域 帯域を変更する



帯域について

帯域は、通話に割り当てられる帯域幅の量を表す用語であり、kbps (1 秒あたりのキロビット数) で測定されます。

帯域が大きくなるほど、品質が向上しますが、帯域幅の消費が大きくなります。

システムには、デフォルトの帯域が設定されています。これは、[管理者設定 (Administrator Settings)] の一環としてビデオ サポート チームが設定します (パスワードで保護)。

この設定を一時的に変更するのはどのような場合かという、多くの場合、システムと接続がサポートしている帯域よりも大きい帯域で通話しようとするときにビデオ コールのチョークを避けるために使用します。

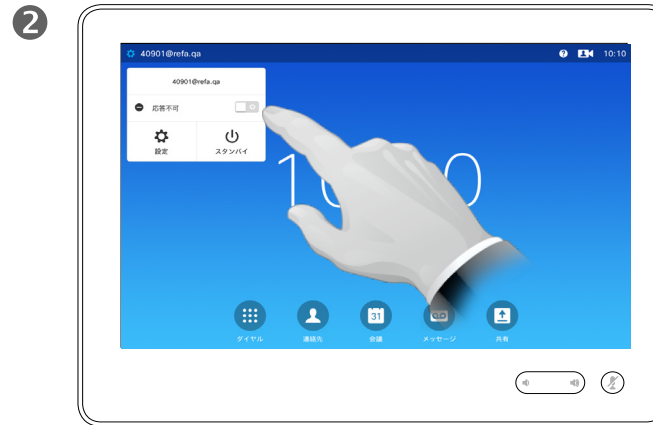
帯域は、通話中は変更できませんが、ここで示しているように発信直前に変更できます。



応答不可を有効にする



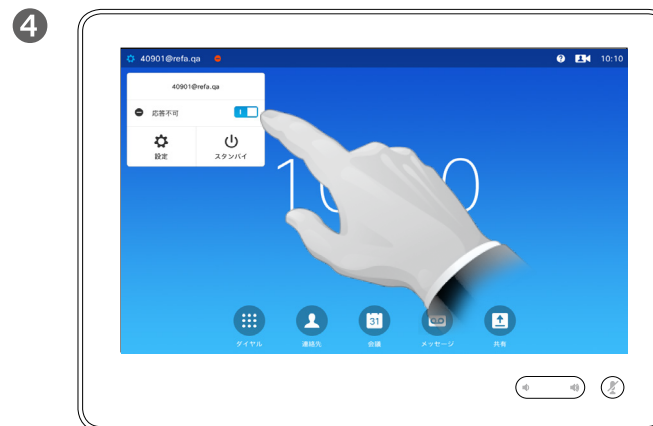
左上隅のフィールドをタップします。



図のように [応答不可 (Do not Disturb)] をタップします。この機能がアクティブになります。



[非表示 (Hide)] をタップすると、表示されているメッセージが消え、[応答不可 (Do not Disturb)] がアクティブになったことがわかります。



この機能を非アクティブにするには、同じ手順を繰り返します。

応答不可について

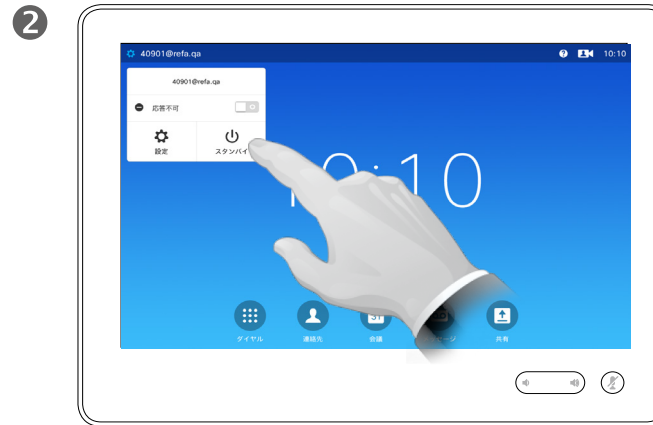
着信に応答しないように、システムを設定することができます。ただし、他者に自由に発信するためにこれを使用することもできます。

ビデオ サポート チームが、この機能のタイムアウトを設定している場合があります。タイムアウト後は、通常のように着信に応答できるようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

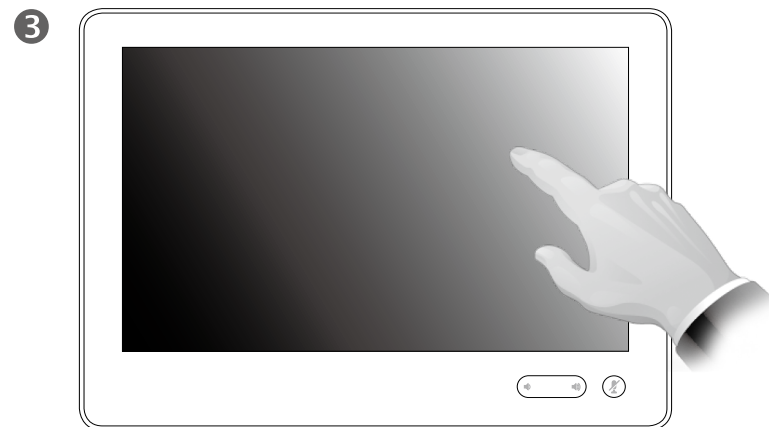
スタンバイを有効にする



左上隅のフィールドをタップします。



[スタンバイ (Standby)] をタップします。

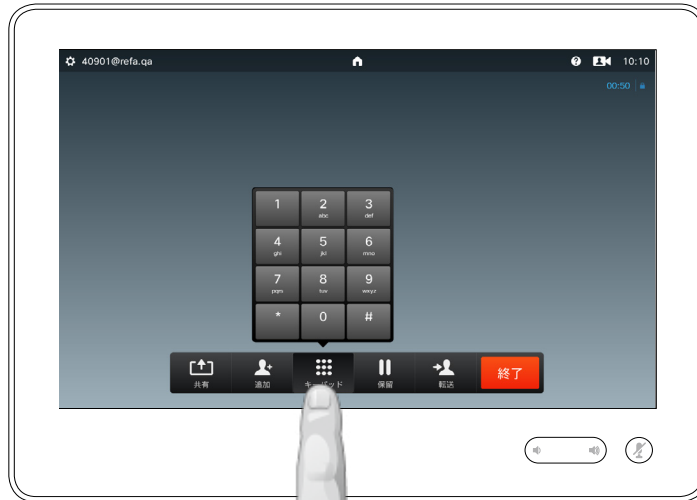


数秒後に画面がオフになります。起動するには、画面をタップします。

スタンバイについて

システムを [スタンバイ (Standby)] に設定すると、電力を節約できます。この場合も、通常どおりに着信できます。

通話中にキーパッドを表示する



通話中に [キーパッド (Keypad)] をタップします。

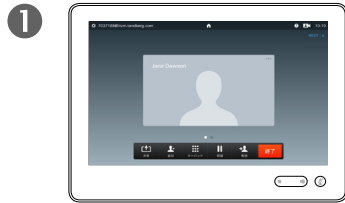


通話中のキーパッドの使用

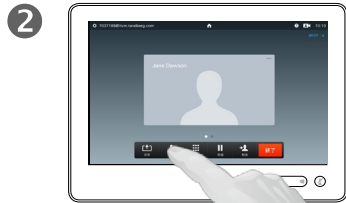
通話中に、内線にアクセスできるようにしたり、(暗証番号コードなどで)何かに入る資格を得たりするために、番号を送信するように要求される場合があります。

これを送信できるようにするには、タッチスクリーンにキーパッドを呼び出す必要があります。

既存の通話に参加者をさらに追加する



すでに通話中であるとして、この通話は、あなたか別の person (他の人があなたに発信した場合) が開始しました。



[追加 (Add)] をタップします。



通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。発信する前にその通話の [通話設定 (Call settings)] を変更できます。詳細については、サイドバーを参照してください。



この新しい通話は既存の通話に追加され、会議が作成されます。最初の通話を終了することなく、この通話をキャンセルすることができます。

ビデオ会議について

お使いのビデオ システムが、参加者が複数いるビデオ会議を開始する機能をサポートしている必要があります。

ビデオ システムがサポートしている参加者の最大数は、システム構成とビデオ インフラストラクチャによって異なります。確信が持てない場合は、ビデオ サポート チームに問い合わせてください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に 1 人ずつ発信する必要があります。

会議を開始したユーザは、会議全体を終了することができます。他の参加者は、会議に対する自分の接続のみを切断することができます。

通話設定: 通話相手は、異なる帯域幅のビデオ システムを使用している場合があります。すべての参加者をすべてのシステムがサポートしている帯域幅に設定するように制約されているわけではありません。システムで利用できる最高の品質を全員に提供するために、[帯域 (Call rate)] はすべての参加者が個別に設定できます。[「帯域を変更する」](#)、[20 ページ](#)を参照してください。

既存の通話に着信通話を追加する



[追加(Add)]:システムがサポートしている場合は着信通話を許可し、現在行われている通話とマージします。

一部のシステムでは、着信通話を既存の通話とマージすることが許可されますが、音声のみの通話として許可されます。

マージを実行するには、現在の通話(または通話グループ)を保留にするように求められる場合があります。



新しい着信の ID がここに表示されます。

着信通話を**拒否**し、続けている通話を続行します。

現在の通話を通話または通話グループを保留にし、着信通話を**許可**します。

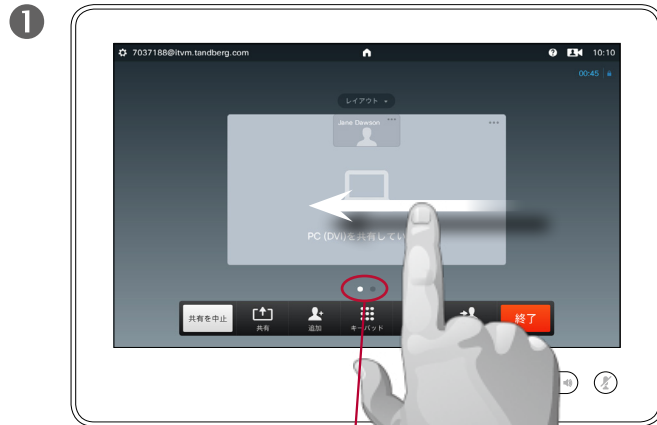
現在の通話を通話または通話グループを終了させ、着信通話を**許可**します。

着信通話の追加について

すでに通話中であるとして。別の着信があった場合は、次のいずれかの操作を実行できます。

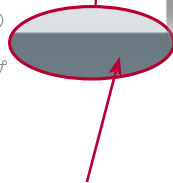
- 通話を拒否し、前の通話を続行します。
- 現在の通話を保留にして、新しい通話を受け入れます。2つの通話をいつでもスワップすることができます。
- 着信を他の人に転送することができます。この中には、自分が話していた相手も含まれます。
- 着信を保留にした後で、この通話を既存の通話とマージすることができます(オプション機能)。
- 着信は進行中の通話に直接マージできます(**許可してマージ**機能)。これは、MultiSite が装備されているシステムにのみ適用されます。

参加者が複数いる電話会議 会議の参加者リストを表示する



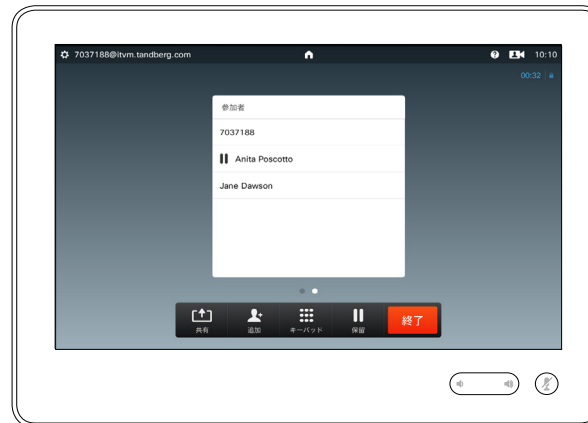
通話中に指を左に向けて水平にスワイプします。

または、小さな点のうち、白で示されていないほうをタップします。



②

リストにすべての参加者が表示され、現在発表している参加者、コンテンツを共有している参加者(該当する場合)、および保留にされている参加者(該当する場合)が表示されます。



参加者リストの使用

リストは、すべての参加者の情報と現在のステータスを知る上で便利な方法です。

また、リストを使用して、参加者と会議との接続を切断したり、参加者に特定の権限を付与したりすることができます。たとえば、他者が話し始めた場合でも、プレゼンターとしての立場を保持することができます。これらの機能については、この後のページで説明します。

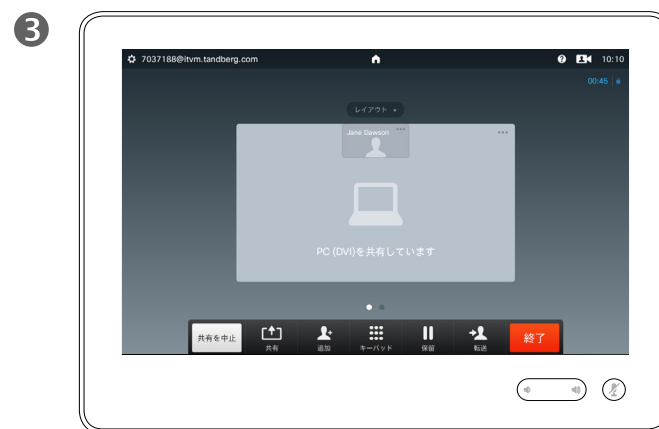
参加者が複数いる電話会議 電話会議レイアウトの管理



ビデオ画面のレイアウトを変更するには、[レイアウト (Layout)] をタップします。



目的の新しいレイアウトをタップします。



新しいレイアウトが適用されます。

レイアウト オプションにつ いて

通話中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。タッチ パッドに使用可能なオプションが表示されます。実際のオプションはここに表示されるものとは異なる場合がありますが、タッチ デバイスには常に使用できるものが表示されます。

WYSIWYG (what you see is what you get) の原理がここにも適用されています。

自画面を含める

自画面 (ビデオ システムから他者に見える内容) は通常と同じように、任意のレイアウトに追加できます。自画面を呼び出す方法については、[「自画面の管理」](#)、52 ページを参照してください。

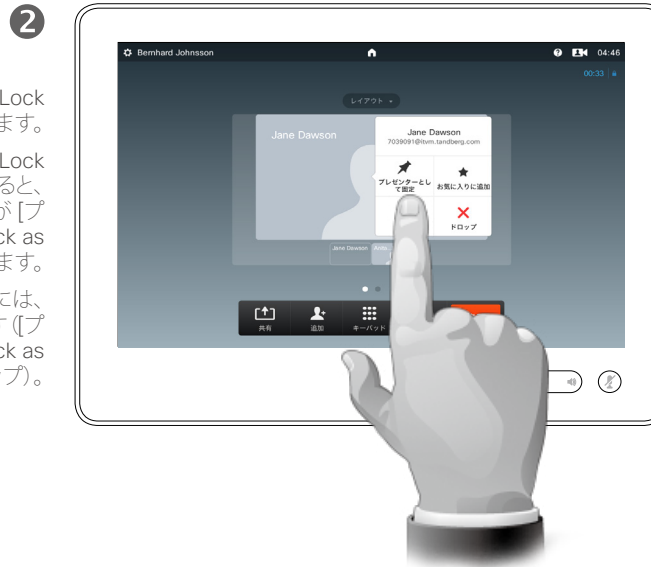
必要に応じて、自画面を他の位置に移動することもできます。

[「自画面 PiP の移動」](#)、54 ページを参照してください。

プレゼンターの固定



このレイアウトの例では、出席者の1人がプレゼンターとして表示されています。つまり、出席者の1人が他の出席者よりも大きく表示されています。



プレゼンターの固定について

複数の参加者とのビデオ会議では、デフォルトとして、プレゼンターが大きな画像で表示されます (別のレイアウトを設定していない場合)。これは、音声切り替えと呼ばれます。

ただし、参加者のいずれかをプレゼンター (通常は他の参加者よりも大きく表示) として表示し続けることもできます。

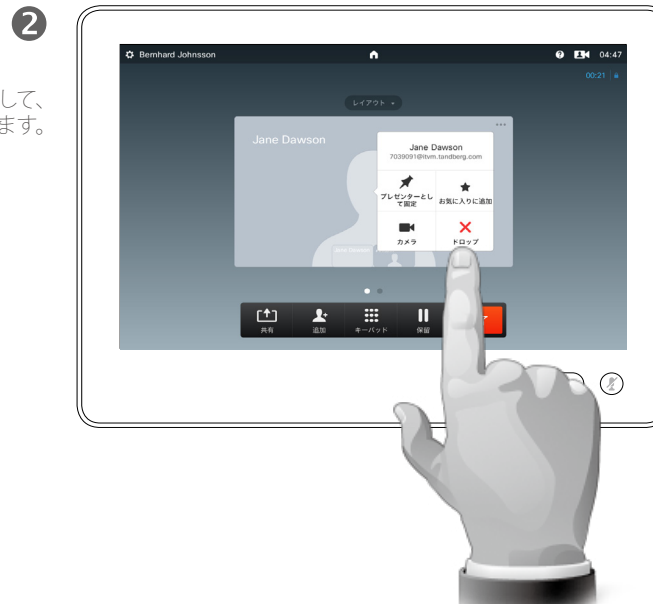
これを行うには、このページに示されている [プレゼンターとして固定 (Lock as speaker)] 機能を有効化します。



参加者が複数いる電話会議 参加者を通話から切断する



参加者のリストを呼び出し、そのリストの参加者をタップすることもできます。



切断について

権限を与えられている参加者は、他の参加者の接続を切断することができます。図のように画面に表示されている参加者をタップするか、リスト内の参加者をタップします（[「会議の参加者リストを表示する」](#)、[26 ページ](#)を参照）。[ドロップ(Drop)]をタップします。





シスコのビデオ エンドポイントは、Intelligent Proximity 機能の一部として超音波を発します。

業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

シスコの MX200/300/700/800 システムでは、スピーカーから 30cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。

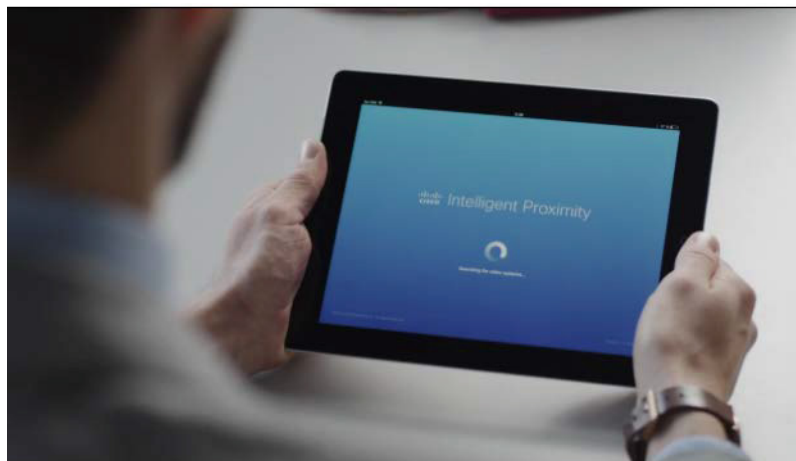
人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満のレベルで影響が生じることはほとんどありません。



Intelligent Proximity

D1534501 ユーザ ガイド
Cisco TelePresence SX10、SX20、MX200 G2、
MX300 G2、MX700、MX800、SX80
作成日: 2015 年 11 月 (CE8.0)
All contents © 2010-2015
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Intelligent Proximity



Intelligent Proximity について

Intelligent Proximity 機能を使用すれば、手元のデバイスでワイヤレスにビデオ システムのコンテンツを共有、表示、キャプチャできます。またビデオ システムの通話を制御することもできます。

次のことを確認します。

- App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション (無料) をダウンロードする必要があります。Windows または OS X を使用している場合は、<http://www.cisco.com/go/proximity> [英語] にアクセスしてください。
- ビデオ サポート チームは、すべての機能を有効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。
- Intelligent Proximity では、ユーザーとの接続に超音波を使用します。スマートフォンやタブレットのマイクをふさがないようにしてください。
- Intelligent Proximity は、会議室の外では機能しないように設計されています。
- ただしプライバシー上の必要がある場合は、会議室の入口を閉めて、隣室に音が漏れないようにします。

Intelligent Proximity のアクティブ化/非アクティブ化



ディスプレイの左上隅をタップします。

2

Intelligent Proximity をアクティブまたは非アクティブにするには、[プロキシミティ (Proximity)] を [オン (On)] または [オフ (Off)] に設定します。



アクティブ化について

Intelligent Proximity 機能を使用すれば、手元のデバイスでワイヤレスにビデオ システムのコンテンツを共有、表示、キャプチャできます。またビデオ システムの通話を制御することもできます。

この機能をアクティブにするには、左に示す手順に従います。

ビデオ サポート チームは、すべての機能を有効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。



通話中、または通話中ではない場合でも、コンテンツを共有することができます。後者の場合は、ビデオ システムを使用して、ローカルの会議室でコンテンツを共有します。



コンテンツの共有

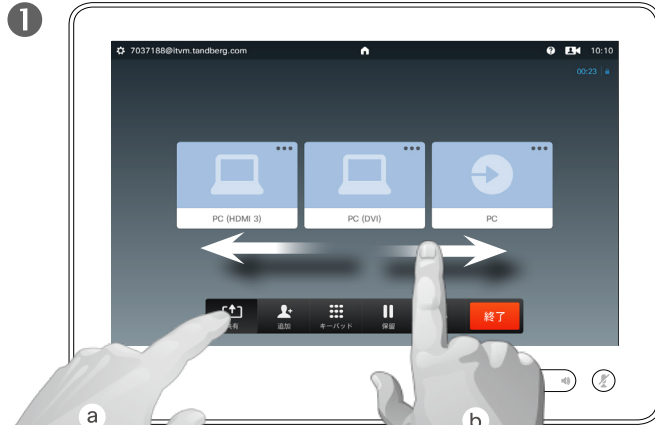
D1534501 ユーザ ガイド
Cisco TelePresence SX10、SX20、MX200 G2、
MX300 G2、MX700、MX800、SX80
作成日: 2015 年 11 月 (CE8.0)
All contents © 2010-2015
Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

コンテンツの共有 通話中にプレゼンテーションを開始/停止する

コンテンツの共有について

ビデオ システムは、ビデオ コールまたはビデオ会議のほかに通話中ではない場合でもプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。後者の機能により、システムを使用して会議室でローカルなプレゼンテーションを行うことができます。このため、ビデオシステムと会議室自体の用途が広がります。

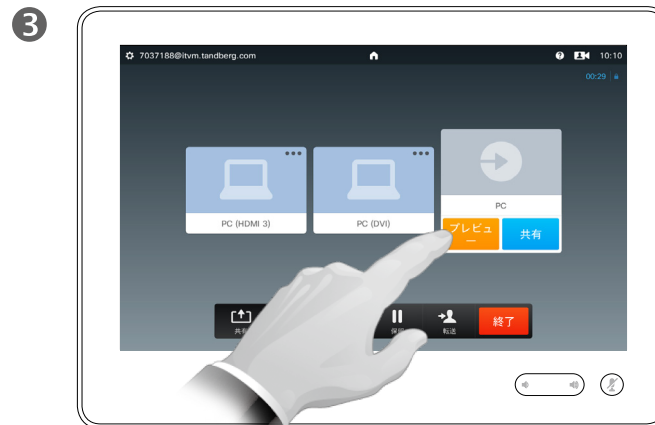
プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。詳細については、次のページを参照してください。



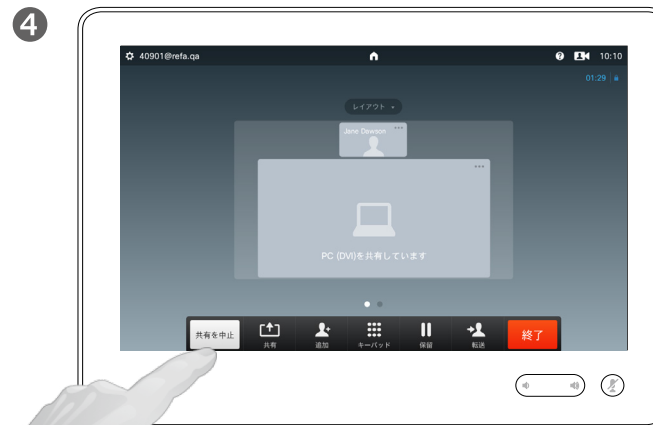
ソースを接続して、スイッチがオンになっていることを確認します。必要に応じて、[共有 (Share)] をタップし (a)、水平にスクロールして (b) プレゼンテーション ソースを探します。プレゼンテーション ソースが見つかったら、目的のソースをタップします。



3 つの小さなドット (...) をタップすると、選択したソースのコンテンツをプレビューまたは共有できるメニューにアクセスできます。



共有する前に、共有する内容を確認する場合は、[プレビュー (Preview)] をタップします。確認してから、[共有 (Share)] をタップすると、ソースのコンテンツ共有が開始されます。



共有したコンテンツは、接続しているすべての参加者が表示できます。コンテンツの共有を停止するには、図のように [共有を中止 (Stop Sharing)] をタップします。



通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更

プレゼンテーション レイアウトについて



1 [レイアウト (Layout)] をタップして、レイアウトのオプションを呼び出します。

2

2 目的のレイアウトをタップして選択します。

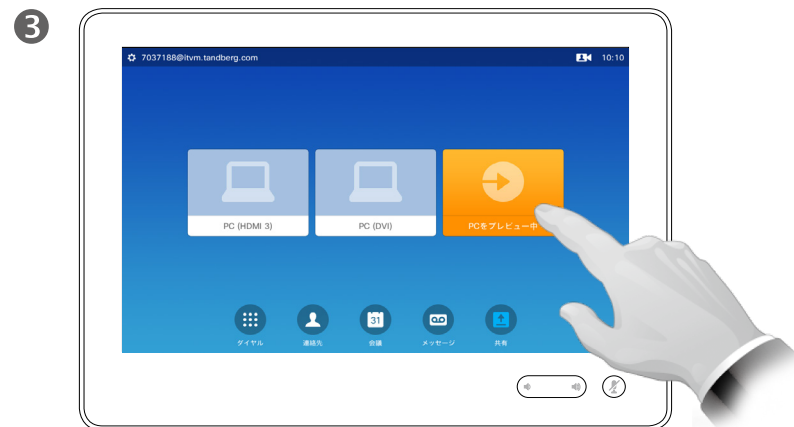


プレゼンテーション中に、スクリーンのレイアウトを変更することができます。通常は、プレゼンターを表示するかどうか、およびプレゼンターを PiP (ピクチャ イン ピクチャ) と PoP (ピクチャアウトサイド ピクチャ) のどちらで表示するかを選択できます。

システムで使用可能なレイアウトのオプションは、ここに表示されているものと異なる場合がありますが、常に、選択可能なレイアウトが表示されます。



コンテンツの共有 通話中ではない場合のプレゼンテーション



ローカル共有について

システムが通話中ではない場合でも、システムの画面にコンテンツを表示できます。

次にプレビュー機能を使用します (「通話中にプレゼンテーションを開始/停止する」、34 ページを参照)。

2 画面のビデオ システムでは、独立した 2 つのソースから同時にコンテンツを共有できます。この機能を実行できるのは、通話中ではない場合に限定されます。このオプションは、通話中には使用できません。

左の例では、デュアル ディスプレイを使用していますが、基本的な内容は 1 画面のシステムにも当てはまります。





ビデオ会議をスケジュールすることができる管理システムに、ビデオ システムを接続することができます。こうすると、予定されている会議がタッチ デバイスの [会議リスト (List of Meetings)] に表示されます。

予定された 会議

予定された会議 会議リストの表示

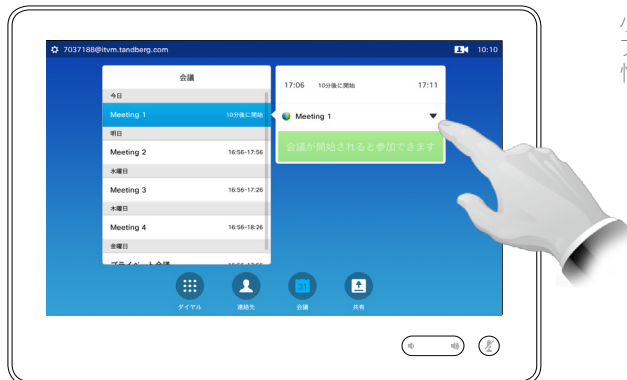


[会議 (Meetings)] をタップして、会議リストを呼び出します。

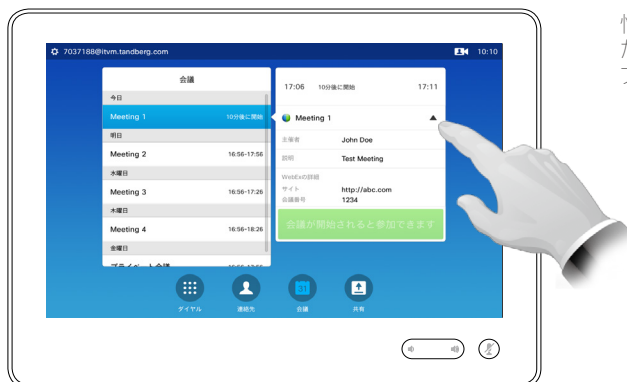


会議リストは通常、ここに示すような外観になります。

リストのエントリをタップして、会議についての詳細情報を入手します。



小さな展開記号をタップすると、さらに詳しい情報が表示されます。



情報ボックスを折りたたむには、もう一度タップします。

会議リストの基本

ビデオ会議をスケジュールすることができる管理システムに、ビデオシステムを接続することができます。こうすると、予定されている会議が会議リストに表示されます。

会議のリストには、次回の会議、つまり、今後 14 日間 (この設定はビデオ サポート チームが変更している場合があります) の間に実施が予定されている会議のリストが含まれています。リストは、グループのヘッダーを使用してソートすることができます。メインのグループ化カテゴリは日 (今日、明日、2014 年 6 月 20 日 水曜日など) です。

リスト内の項目をタップすると、詳細が表示されます。

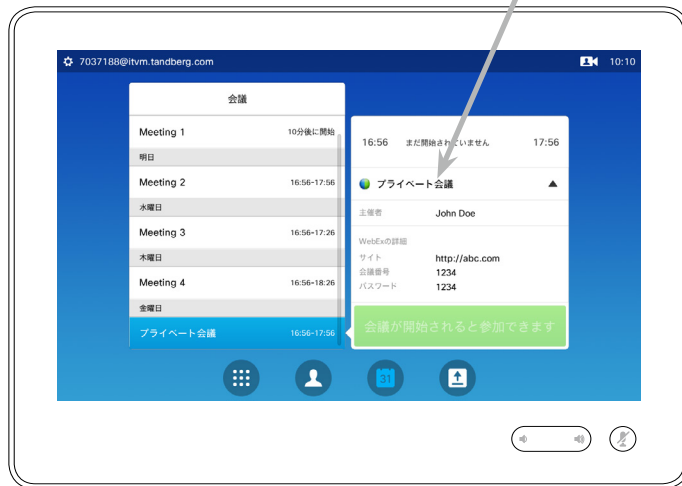
予定されている会議がプライベート会議として表示される場合は、主催者についての情報のみが表示されます。タイトル、展開可能なミーティングの概要、およびダイヤルイン情報は表示されません。

予定された会議 スケジュールされたミーティングに参加



リスト内の会議をタップすると、その会議の詳細が表示されます。

会議がプライベートとしてタグ付けされている場合、他の会議タイトルは示されません。



進行中の会議を延長する

予定されている会議の開始時間と終了時間は固定されています。進行中の会議を延長することができます。関連するビデオ システムに他の会議がスケジュールされていない場合は、延長可能な時間だけ会議が自動的に延長されます。

延長可能な場合は、[会議が終了します (Meeting will end)] 通知に [延長 (Extend)] オプションと [表示を消す (Dismiss)] オプションが表示されます。

会議を延長するには、[延長 (Extend)] ボタンをタップします。

会議が開始されると参加できます

デフォルトの設定では、最大 10 分前から参加できますが、ビデオ サポート チームが異なる設定を実装している場合があります。

会議に参加

予定されている会議に自動的に接続される場合もあれば、[会議に参加 (Join Meeting)] をタップすることが必要な場合もあります。



会議が開始されるとメッセージが表示され、すぐに会議に参加するか、5 分後に再度メッセージを表示するか、またはメッセージを閉じるかを選択できます。



通話中に会議が開始された場合もメッセージが表示され、通話中に他者からの着信があった場合と同じように、現在の通話を終了して会議に参加するかどうかを選択できます。

参加について

会議に参加することが可能になると、ビデオ システムに [ミーティング リマインダ (Meeting Reminder)] が表示されます。ミーティング リマインダが表示されるタイミングは、[開始時間のバッファ (Start time buffer)] の設定によって異なります。デフォルトのバッファ設定は 10 分ですが、ビデオ サポート チームによって変更されている場合があります。この設定時間よりも前に、会議に参加することはできません。

ミーティング リマインダには、会議の開始時刻、または会議が始まってからの経過時間 (進行中の会議は [進行中のミーティング (Meeting in progress)] として示されます) を表す時間インジケータが表示されます。

会議の予定開始時間の 30 秒前から 30 秒後までの間、「今すぐ開始」というテキストが表示されます。

予定された会議 並行会議



同時に発生する会議は、「並行会議」と呼ばれます。この例の会議名は、その会議が並行会議であることを示すために使用されています。

会議の選択

並行会議が発生する(2 つ以上の会議が同時に開かれる)たびに、会議リストに通知が表示され、今後の会議がすべて表示されます。参加する会議を選択して参加します。

31



連絡先は、[ディレクトリ (Directory)]、[発着信履歴 (Recents)]、[お気に入り (Favorites)] の 3 つの部分で構成されます。ディレクトリは通常、社内の電話帳です。発着信履歴は、最近の発着信のリストです。お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスできるようにしたい相手を含むように自分で設定したリストです。



連絡先

連絡先 ディレクトリ

リストをスクロールして、[ディレクトリ(Directory)] 内のエントリを探す：

①



[連絡先
(Contacts)]
をタップします。

②



必要に応じて、
[ディレクトリ
(Directory)] を
タップします。

③



リストをスクロール
してエントリを探し
ます。

[ディレクトリ(Directory)] 内のエントリを検索して探す：

①



[連絡先
(Contacts)]
をタップします。

②



必要に応じて、
[ディレクトリ
(Directory)] を
タップします。

③



[検索またはダイヤル
(Search or Dial)] をタップして
仮想キーボードを呼び出し、名
前、番号、または住所を入力し
ます。入力すると、一致する可能性
のあるものが表示されます。

ディレクトリについて

[ディレクトリ(Directory)] は、社内電話帳としての役割を果たします。このディレクトリを編集することはできません。ただし、エントリを [お気に入り(Favorites)] のリストにコピーした上で編集することはできます。

フォルダをタップしてそのコンテンツを表示します。必要に応じて、ディレクトリをスクロールしてフォルダやフォルダ内のエントリを探します。

見つかったら、[発信履歴(Recents)] リストの場合と同じ方法でエントリをタップし、通話、編集、お気に入りリストへの追加を行います (詳細については、前のページを参照)。

社内ディレクトリ内で検索する場合、検索は現在のディレクトリフォルダとそのサブフォルダにのみ適用されます。1つ上のレベルに移動するには、[戻る(Back)] をタップします。検索を社内ディレクトリ全体に適用する場合は、検索を開始する前に、フォルダを入力(タップ)しないでください。

ディレクトリからお気に入りのリストにコピーしたエントリが、その後ディレクトリ内で更新されることがあります。この更新はお気に入りのリストに反映されません。この場合は、お気に入りのリストで、該当のエントリを手動で更新する必要があります。



連絡先 発着信履歴

発着信履歴リストにアクセスするには:



1つのエントリを削除する場合:



発着信履歴リスト全体をクリアする場合:



発着信履歴について

[発着信履歴 (Recents)] には、最後にリストをクリアしたとき以降の着信、発信、不在着信が一覧表示されます。

エントリをタップして、次の操作を実行できます。

- [発信 (Call)] をタップして、エントリに発信します。
- エントリを進行中の通話に追加します (オプション)。
- エントリを [お気に入り (Favorites)] に追加します。
- エントリ情報を編集してから発信します。
- 帯域設定を変更します。
- エントリをリストから削除します。
- リスト全体をクリアします。

プライバシー上の理由で、エントリを [発着信履歴 (Recents)] リストから削除したり、リスト全体をクリアしたりすることができます。

同じ人からの着信や同じ人への発信が数回あったとします。このような通話ごとに、[発着信履歴 (Recents)] リストにエントリが作成されます。

リスト内の1つのエントリの削除を選択しても、そのエントリの他の通話記録はリストから削除されないことに注意してください。



連絡先 お気に入り

ディレクトリまたは発着信履歴からお気に入りのリストに追加する：



1 [連絡先 (Contacts)] パネルで、必要に応じて [ディレクトリ (Directory)] または [発着信履歴 (Recents)] をタップします。



2 リストをスクロールしてエントリを探します。



3 エントリ (a) をタップし、次に (b) [詳細 (More)] (⋮) をタップします。



4 [お気に入りに追加 (Add to Favorites)] をタップします。



5 [保存 (Save)] をタップし、メニューを終了して変更を適用します。名前または URI をタップすると、エントリを編集できます。



6 お気に入りにしたばかりの人に発信することもできます。

お気に入りのリストに手で追加する：



1 [検索またはダイヤル (Search or Dial)] をタップして、仮想キーボードを呼び出します。



2 名前、番号、または住所を入力します。入力すると、一致する可能性のあるものが表示されます。



3 目的のエントリが見つかった場合はそのエントリをタップして (a)、小さな矢印をタップします (b)。その後、上記の手順 3 から実行します。

お気に入りについて

[お気に入り (Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り (Favorites)] は、[発着信履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。



通話中に [お気に入り (Favorite)] に追加する



1 通話中に、アバターをタップします。
複数の参加者とのビデオ会議中に、お気に入りに追加するアバターをタップします。



2 [お気に入りに追加 (Add To Favorites)] をタップします。



3 必要に応じてエントリを編集します。



4 [閉じる (Close)] をタップしてキーボードを非表示にします。



5 [保存 (Save)] をタップして、新しいお気に入りに追加します。

この機能について

お気に入りのリストに追加するには、いくつかの方法があります。そのうちの1つを使用して、通話中にお気に入りに追加することができます。

通話後に、通話の相手先をお気に入りのリストに追加する必要があったことに気が付くことがあります。その場合は、[連絡先 (Contacts)] と [お気に入りに追加 (Add to Favorites)] を使用します。[「発着信履歴」、43 ページ](#)を参照してください。





ビデオ会議中にいつでも、ビデオ システムのカメラを操作できます。相手先が最高のエクスペリエンスを得られるように、相手先がカメラを操作することもできます。

このシステムでは、カメラ ビューを簡単に切り替えるためにカメラ プリセットを事前定義できます。



カメラ

カメラ カメラ設定の表示



カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。

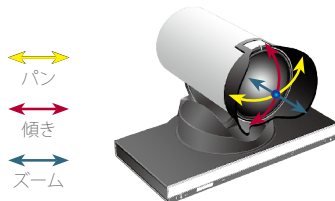
定義されたカメラ プリセットがある場合は、ここに一覧表示されます。

自画面のオン/オフを切り替えます。

パン コントロール/
傾きコントロール。

自画面を最大化または最小化します。

拡大および縮小します。



カメラ設定について

カメラ設定では、カメラのズーム、パン、および傾きの操作に加えて、カメラ位置プリセットの定義および編集を行うことができます。

さらに、自画面(システムから他者に見える画像)のオン/オフに加えて、自画面の最大化/最小化を行うことができます。

自画面が画面上の画像の重要な部分を遮っている場合は、自画面の位置を移動できます。方法については「[自画面 PiP の移動](#)」、54 ページを参照してください。



カメラ カメラ位置プリセットの追加



① カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。



② 自画面をタップして有効化します。



③ 必要に応じて、傾き、パン、およびズームを調整します。



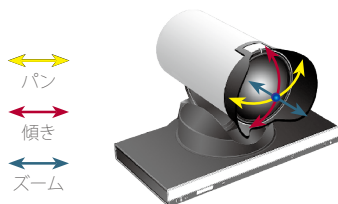
④ [新たに追加 (Add New)] をタップします。



⑤ 設定内容を示すような名前を入力します。



⑥ 変更を反映してメニューを終了するには [保存 (Save)] をタップし、変更を元に戻してメニューを終了するには [キャンセル (Cancel)] をタップします。



カメラ プリセットについて

ビデオ システムでは、事前定義されたズームおよびカメラの向く方向(パンと傾きとも呼ばれます)を作成できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズームアウトすることを忘れないでください。

つまり、1 つまたは複数のズームインプリセットを作成する場合は、ズームアウト(概要)プリセットも作成して、概要モードに簡単にスイッチバックできるようにする必要があります。

相手先カメラ、つまり、他のいずれかの参加者のカメラは操作できます(リモート操作可能な場合)が、それらのプリセットを定義したり、利用したりすることはできません。



既存のカメラ位置プリセットの編集

プリセット編集について

1



カメラをタップして、カメラ調整の効果を確認します。

2



自画面をタップして有効化します。

3



必要に応じて、パン、傾き、およびズームを調整します。

4



編集するプリセットの小さな矢印をタップします。

5



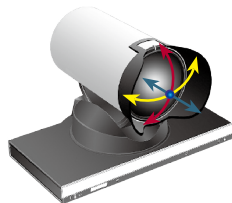
[現在のプリセットを上書き (Update to current position)] をタップして変更を適用します。

既存のプリセットを削除するには [削除 (Remove)] をタップします。

6



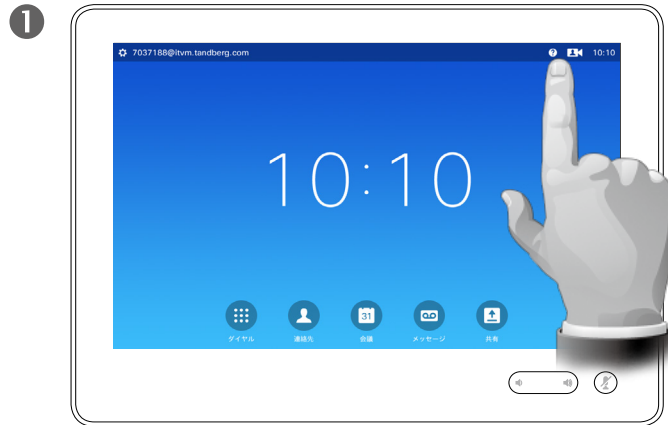
終了するにはメニュー以外の場所をタップします。



プリセットを編集するには、既存のプリセットを取得して変更し、同じ名前で作成します。

名前を変更する場合は、プリセットを削除してから、適切な名前で新しいプリセットを作成することをお勧めします。

カメラ スピーカー トラッキング



1 スピーカー トラッキングを有効にするには、右上隅の**カメラ**をタップします。



2 表示されたメニューの右上隅にあるボタンをタップして、**スピーカー トラッキング**機能をアクティブにします。



3 メニュー以外の場所をタップして終了します。

スピーカー トラッキングを非アクティブにするには、この手順を繰り返します。

スピーカー トラッキングについて

スピーカー トラッキング カメラ システムを搭載したシステムでは、ビルトインマイク アレイと連動する 2 台のカメラを使用します。システムがプレゼンターを追跡して表示するので、[カメラ操作 (Camera Control)] メニューや [カメラプリセット (Camera Presets)] を使用して拡大または縮小する必要はありません。

スピーカー トラッキングがアクティブになっても、カメラ位置プリセットはそのまま利用できます。ただし、スピーカー トラッキング モードでカメラ位置プリセットをタップすると、いずれかのカメラが操作に追従して、スピーカー トラッキングは非アクティブになります。

必要に応じて、このページで示されているように、もう一度スピーカー トラッキングをアクティブにします。

マイクがミュートにされている場合、スピーカー トラッキングは動作しないことに注意してください。

左側のヒントで説明しているように、スピーカー トラッキングの拡張によって、ホワイトボードへのスナップ機能を追加できます。

ヒント スピーカー トラッキング対応のシステムには、ホワイトボードへのスナップ機能を追加できます。この機能が動作するには、ビデオ サポート チームによるアクティブ化が必要です。

ホワイトボードへのスナップでは、カメラは、事前定義されたホワイトボード領域と、ホワイトボードの側に立っているプレゼンターを表示します。

ホワイトボードへのスナップがアクティブになっていない場合、カメラはプレゼンターを拡大するだけで、ホワイトボードを表示しません。

ホワイトボードへのスナップが動作するのは、プレゼンターがホワイトボードの側に立って話している場合に限定されます。この実装は、ホワイトボードの前に座っても、スナップ機能をトリガーさせないようにするという設計によるものです。



カメラ 自分のカメラを操作する

カメラ プリセットを使用する場合:



通話中(この図)または通話外で、**カメラ**をタップします。



使用するプリセットを選択します。



メニュー以外の場所をタップして終了します。

カメラのパン、傾き、およびズームの調整:



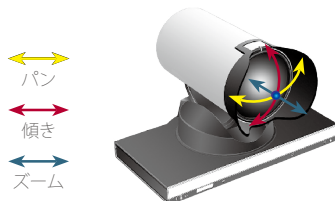
通話中(この図)または通話外で、**カメラ**をタップします。



自画面をタップし(a)、**パン**、**傾き**、および**ズーム**を調整します(b)。



メニュー以外の場所をタップして終了します。



カメラ操作について

通話中には、既存のカメラ プリセットをすぐに使用できます。

ビデオ システムに複数のカメラがある場合があります。たとえば、1つのカメラで参加者を映し、もう1つのカメラでホワイトボードを映している場合などです。

新しいカメラ プリセットを追加するか、既存のカメラ プリセットを変更する場合は、非通話時と同じ方法で行います。詳細については「[既存のカメラ位置プリセットの編集](#)」、49 ページを参照してください。

プリセットを追加したり、編集したりする代わりに、カメラのパン、傾き、およびズームを簡単に調整することも検討する必要があります。



カメラ 自画面の管理

通話外の場合：



1 カメラをタップします。



2 自画面をタップしてオンにします。

これで、自画面画像のサイズを変更したり(詳細については、次のページを参照)、カメラのパン、傾き、およびズームを操作したり(詳細については、前のページを参照)することができるようになりました。



3 メニュー以外の場所をタップして終了します。

通話中の場合：



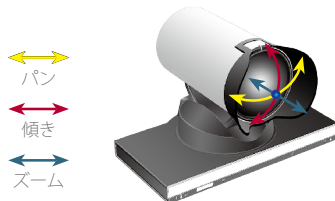
1 自画面アバターをタップします。



2 これで、自画面のオフ、最大化/最小化、カメラを選択してカメラ操作へのアクセスができます(カメラ操作の詳細については前のページを参照)。



3 メニュー以外の場所をタップして終了します。



自画面について

自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

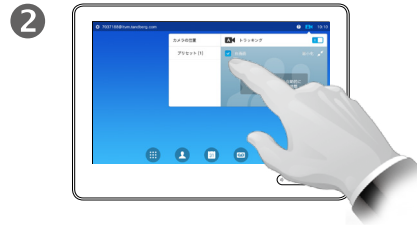
自画面 PiP の位置は必要に応じて変更できます。詳細については「[自画面 PiP の移動](#)」、54 ページを参照してください。



自画面 PiP のサイズを変更する



1 カメラをタップします。



2 自画面をタップしてオンにします。



3 これで、[最大化 (Maximize)] をタップしてフルスクリーンの自画面にすることができるようになりました。

このプロセスを繰り返して、もう一度自画面アイコンをタップすることで、**自画面**を最小化したり、無効化したりします。

また、自画面アイコンを使用して、自分のカメラを操作することもできます。



4 このメニューを終了して変更を有効にするには、アクティブなメニュー以外の場所をタップします。

自画面のサイズを変更する理由

自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

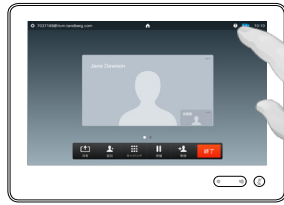
会議中に時折、自画面の有効化が必要になる場合があります。

他の参加者が見やすくなるように、カメラをズーム、パン、または傾けることができます。見やすくするために、自画面を最大化できます。



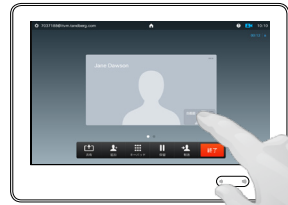
自画面 PiP の移動

①



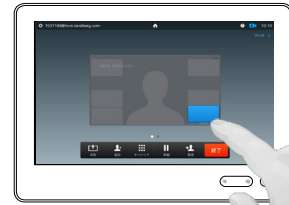
必要に応じて画面右上の自画面をタップして、自画面を呼び出します。

②



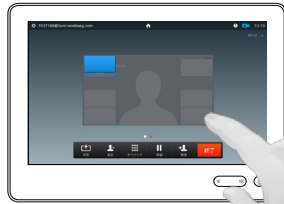
自画面エリア内を指で長押しします。

③



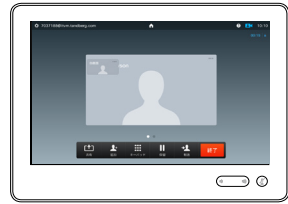
青になったらすぐに、自画面を新しい場所にドラッグします。移動できる場所が示されます。

④



入れる位置までドラッグしたら、タッチスクリーンから指を離します。

⑤



これで、自画面がその新しい場所に設定されます。

自画面を移動する理由

自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、自画面を使用して、目的どおりの映像が他者に表示されるかどうかを確認します。

自画面は、PiP (ピクチャ イン ピクチャ) として表示されます。

会議中に時折、自画面の有効化が必要になる場合があります。たとえば、同じ部屋にいる講演者があちこち動き回っても、常にスクリーンに映っていることを確認したい場合などです。

自画面の現在の位置によって、画面上の画像の重要な部分が遮られる場合があります。このような場合に、自画面を移動することができます。



他の参加者のカメラの操作

①



通話中に、他の参加者を表すアバターをタップします。

参加者が多くないビデオ会議では、カメラを操作したい参加者のアバターをタップします。

②



カメラをタップします。

③



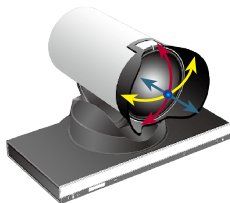
カメラのパン、ズーム、および傾きを調整します。

④



メニュー以外の場所をタップして終了します。

↔
パン
↕
傾き
↔
ズーム



カメラ操作について

ビデオ会議では、*相手先*とは多くの場合、通話中の相手を意味します。

同様に、*自局*とは多くの場合、ビデオ会議の自分側を意味します。

相手先カメラを操作する機能は、相手先システムのカメラがリモート操作可能であることが必要です。手動でカメラを調整するシステムには、この機能を適用できません。

相手先のビデオシステムに存在するプリセットにはアクセスできません。





このガイドで使用方法が説明されているビデオ エンドポイントは、タッチ スクリーン コントローラまたは Web インターフェイスから設定できます。設定可能なパラメータすべてにアクセスするには、Web インターフェイスが必要です。タッチ パッドでは、一部のパラメータにしかアクセスできません。



設定 設定にアクセスするには



左上隅のフィールドをタップします。



[設定 (Settings)] をタップします。



リストをスクロールして目的の項目を探します。

設定について

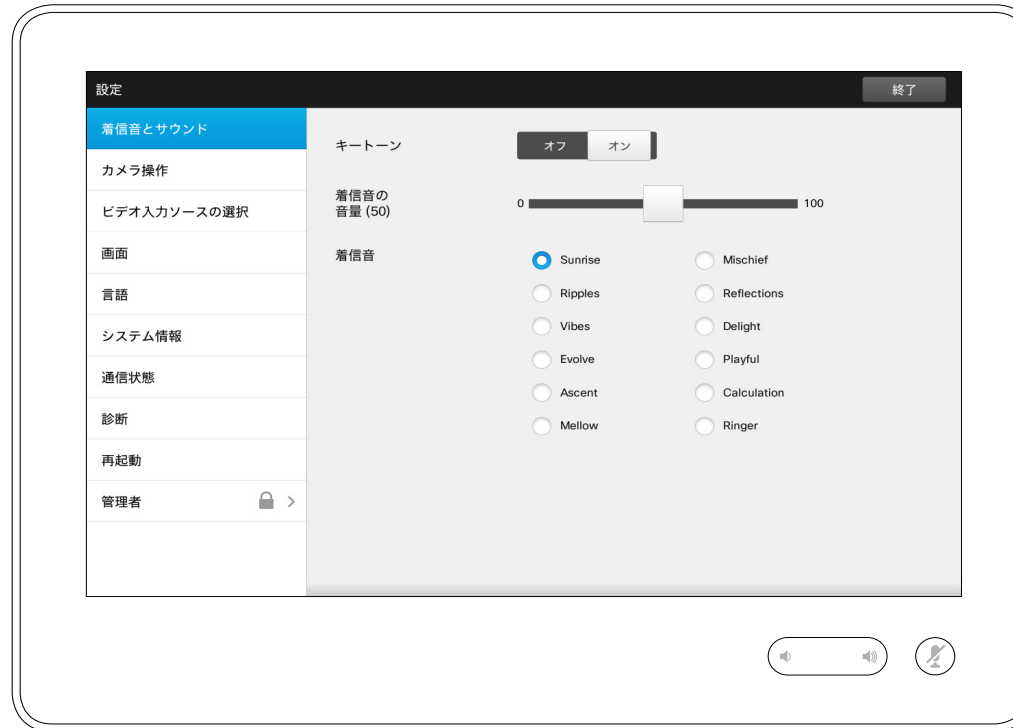
設定を変更する場合は、システムが動作を停止しないように注意を払う必要があります。確信が持てない場合は、ビデオ サポート チームに問い合わせてください。

セキュリティ上の理由により、ビデオ サポート チームによって、管理者設定へのアクセスがパスワードで保護されている場合があります。

[設定] にアクセスするには、タッチパッドの左上隅の設定アイコンをタップします。



設定 着信音とサウンド



着信音とサウンドについて

[着信音とサウンド (Ringtone & Sound)] 設定ウィンドウを使用して、次の項目を指定できます。

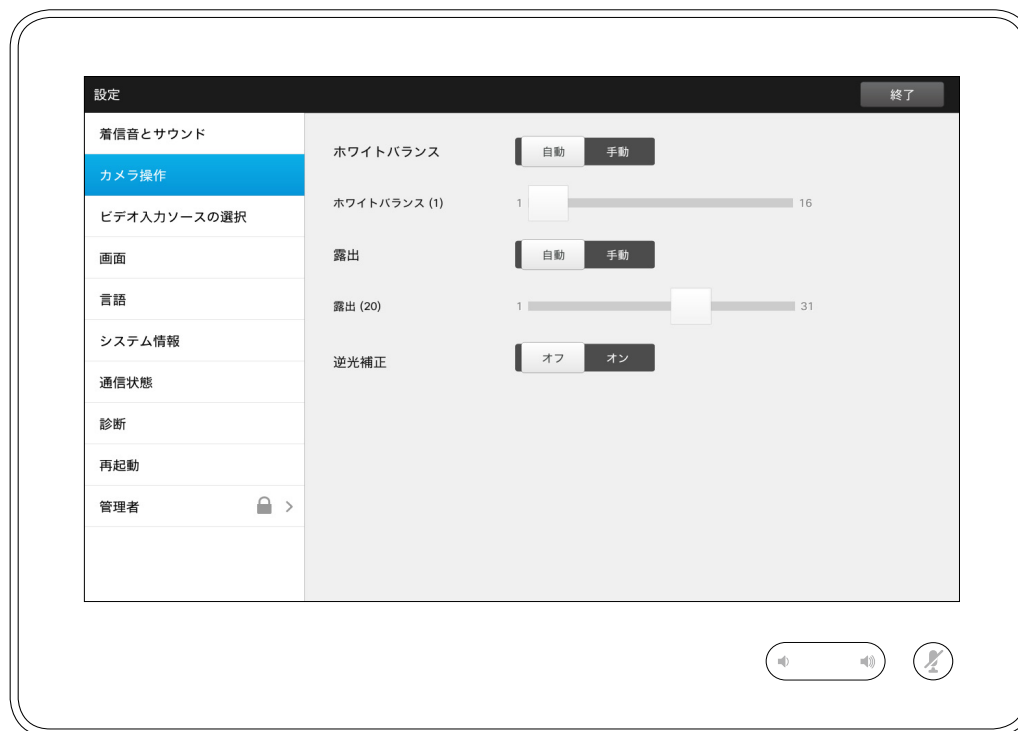
- **[キートーン (Keytones)]:** [オン (On)] または [オフ (Off)]。オンに設定すると、タッチ コントローラのフィールドをタップするたびに、サウンドが鳴ります。
- **[着信音の音量 (Ringtone volume)]:** 着信音の音量を設定できます。
- **[着信音 (Ringtone)]:** いくつかの着信音から選択できます。着信音をタップするたびに、サンプル音が鳴ります。

各設定を選択した場合にどのように表示されるかに注意してください。例では、[キートーン (Keytones)] が [オン (On)] に設定されています。

このメニューを終了して変更を有効にするには、[終了 (Exit)] をタップします。変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



設定 カメラ操作



カメラ操作について

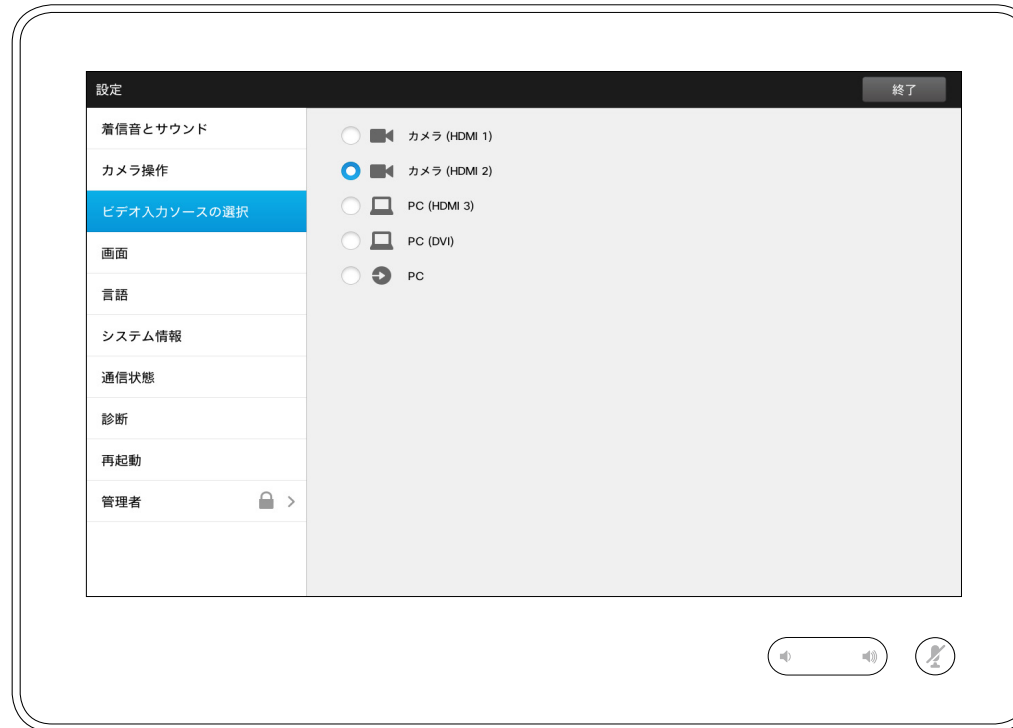
[カメラ操作 (Camera Control)] ウィンドウを使用して、カメラのホワイトバランスと露出を設定することができます。自身で微調整しない場合は、[自動 (Auto)] をタップしてシステムに設定させます。

背後の光が強い場合は、逆光補正が役立ちます。補正しない場合、相手先に自分が暗く表示されます。

各設定を選択した場合にどのように表示されるかに注意してください。この例では、[逆光補正 (Backlight compensation)] が [オフ (Off)] に設定されています。



メインソースの選択

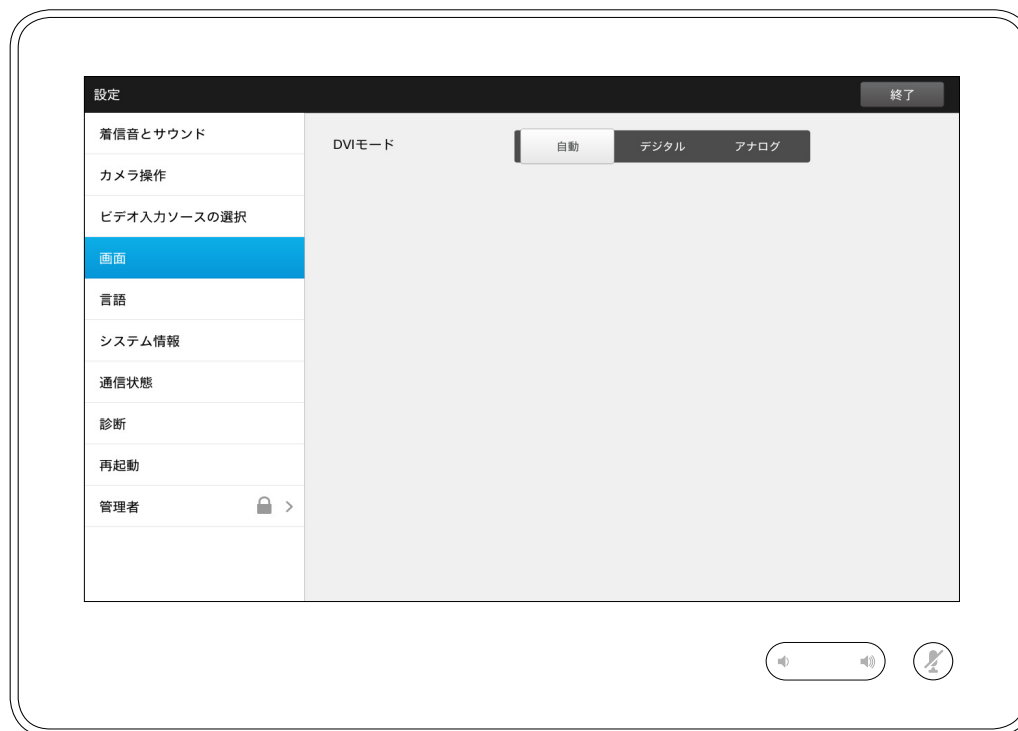


ソースの選択について

メインソースを選択します。システムの操作中に別のソースを選択することができます。ただし、ここで指定したソースがデフォルト設定になります。

使用可能なオプションはシステムにより異なります。使用するシステムによっては、より多くの数のオプションが表示されたり、少ない数のオプションが表示されたりすることがあります。



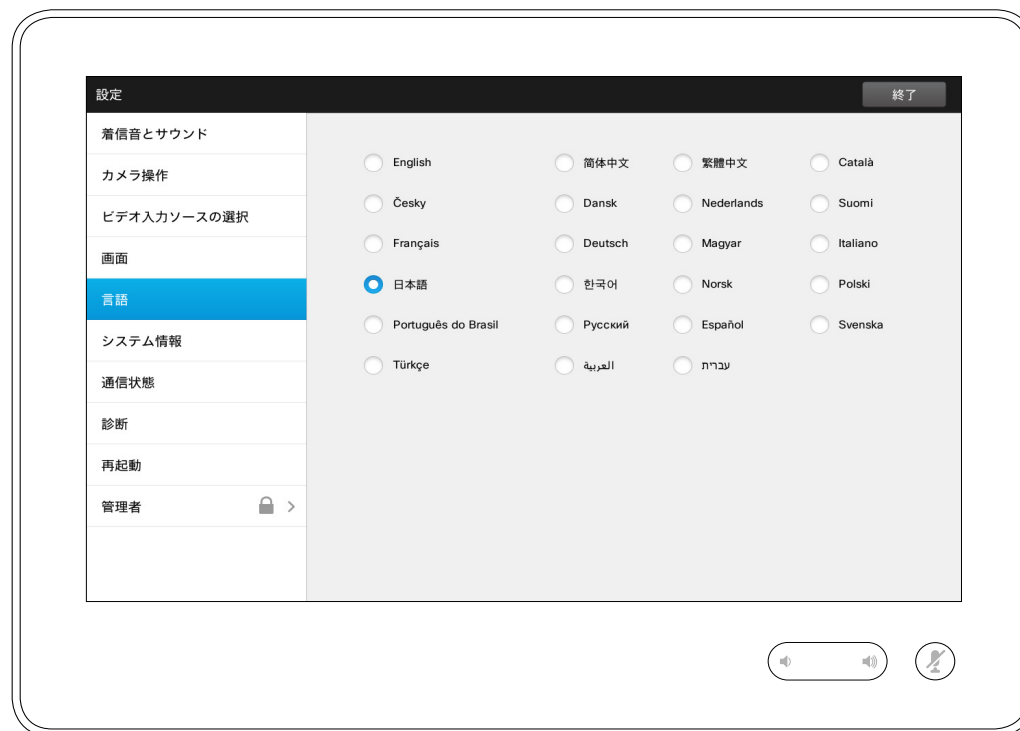


DVI モードについて

このメニューでは、DVI モードをアナログ、デジタル、または自動検出に設定できます。



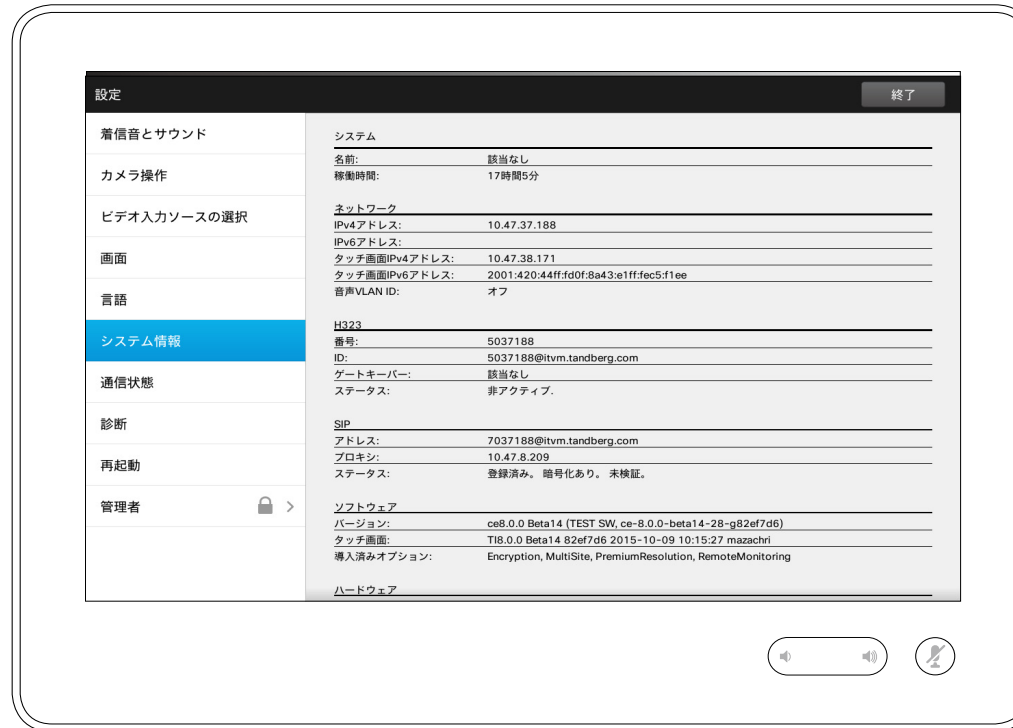
設定 言語の選択



言語設定について

[言語 (Language)] ページを使用して、タッチ インターフェイス メニューの言語を指定することができます。





システム情報について

[システム情報 (System Information)] ウィンドウには、システムのソフトウェア、ハードウェアのバージョン、および接続に関する情報、SIP と H.323 のステータスなどが表示されます。

システムに不具合が発生した場合、技術スタッフからこれらの情報を提供するように求められます。



設定 コール ステータス



コール ステータスについて

[コール ステータス (Call Status)] ウィンドウには、帯域、暗号化、およびビデオと音声の重要なパラメータに関する情報が表示されます。

システムに不具合が発生した場合、技術スタッフからこれらの情報を提供するように求められます。





診断について

トラブルシューティングのために、追加のシステム ログを有効にできます。画面の指示に従います。

システム パフォーマンスは、そのときに行われているシステム ログ記録による影響を受ける可能性があることに注意してください。

システムに不具合が発生した場合、技術スタッフからこれらの情報を提供するように求められます。



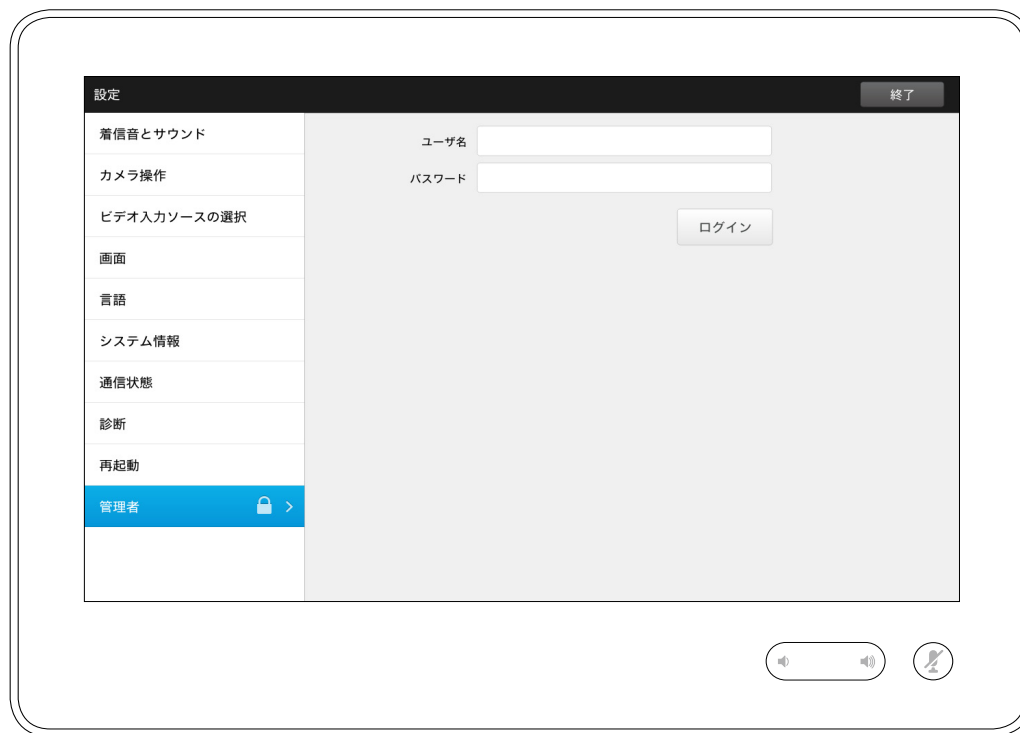
設定 システムの再起動



再起動について

この機能を使用して、システムを制御された正しい方法で再起動することができます。設定は失われません。





管理者について

[管理者 (Administrator)] 設定は、通常、ビデオ サポート チームによってパスワードで保護されています。

[ユーザ名 (Username)] と [パスワード (Password)] を入力して、[ログイン (Log in)] をタップします。



[管理者設定 (Administrator Settings)] - [トラッキング (Tracking)]



図のように、タップして、ホワイトボードへのスナップ セットアップ ウィザードを起動します。

トラッキングについて

スピーカートラッキング用に 2 台のカメラをセットアップしたシステムの場合は、このウィンドウでトラッキング モードを指定できます。[標準 (Normal)] または [高速 (Fast)] を選択します。

さらに、このウィンドウでは、ホワイトボードへのスナップ機能を設定できます。

ウィザードの指示に従って、この機能を設定します。

注: スピーカートラッキングマイクの感度領域は、床上総高さ (床上からマイクの位置まで) です。このマイクは、ホワイトボードの側に立っているプレゼンターに反応するようにシステムを設定するために使用します。プレゼンターがホワイトボードの前に座ると、スナップ機能は呼び出されません。

この機能を有効にするために、システムは定義されたホワイトボード領域の上半分の位置で、顔と声を認識しようとします。

ホワイトボードは、カメラ システムと反対側の壁に設置する必要があります。この機能は、上記以外の入射角を想定していません。

ホワイトボードへのスナップ機能の詳細については、ビデオ システムの管理者ガイドを参照してください。



設定

[管理者設定 (Administrator Settings)] - [日付と時刻の設定 (Set Date and Time)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、

ご注意ください。



時刻設定について

このウィンドウを使用して、使用する日付と時刻の表記形式、およびタイムゾーンを指定することができます。

この例に示されているように、[日付と時刻モード (Date and Time Mode)] を [自動 (Auto)] に設定すると、NTP サーバが検索され、そのサーバから日付と時刻を取得します。

この例に示されているように、[NTPモード (NTP mode)] を [手動 (Manual)] に設定した場合は、NTP サーバのアドレスを指定して、処理が正常に実行されるようにする必要があります。



[管理者設定 (Administrator Settings)] - [通話の詳細 (Call Details)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、

ご注意ください。



通話の詳細について

[自動応答 (Auto Answer)] を有効にすると、指定された遅延の後に、システムが着信に自動的に応答します。自動応答をアクティブにすると、必要なプライバシーが得られない可能性があります。ここに示した例では、[自動応答 (Auto Answer)] は [オフ (Off)] に設定されています。

場合によっては、通話の帯域幅 (質) を変更する必要があります。一部の構成の受信帯域幅と発信帯域幅が異なることがあります (ADSL 接続の場合など)。デフォルトの帯域を指定して、ビデオの画質を安定させることができます。

デフォルトのプロトコルを指定することもできます。この例では、プロトコルは [SIP] に設定されています。

注意: 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



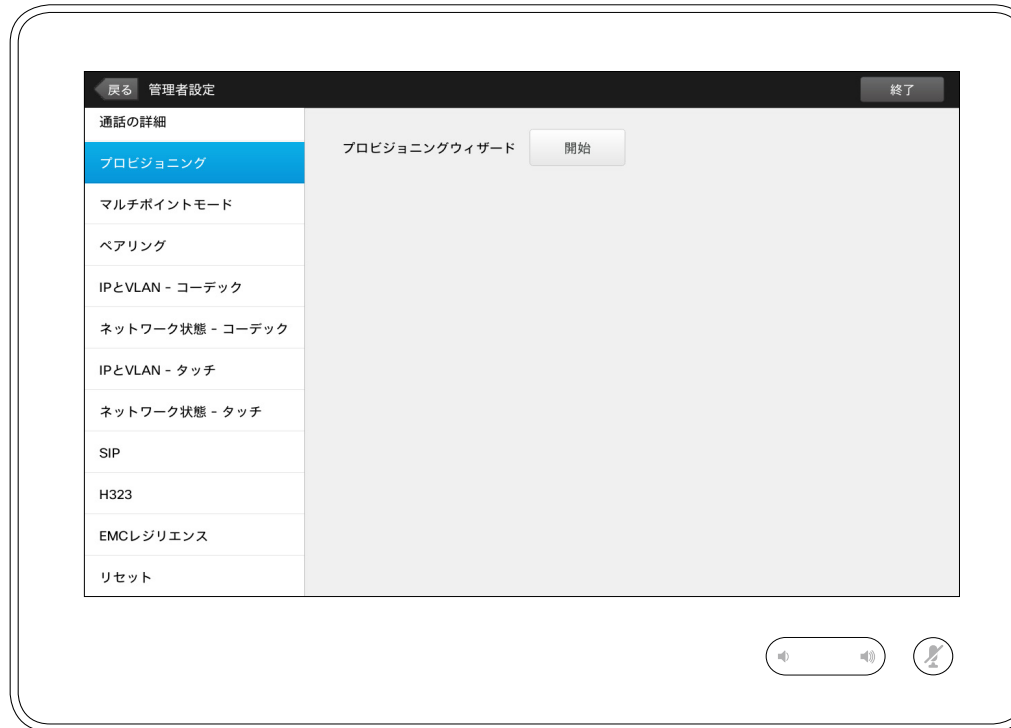
設定

[管理者設定 (Administrator Settings)] - [プロビジョニングウィザード (Provisioning Wizard)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



ウィザードについて

プロビジョニング ウィザードを使用し、システムをオンラインにすることができます。[開始 (Start)] をタップして、画面の指示に従います。

注意: 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



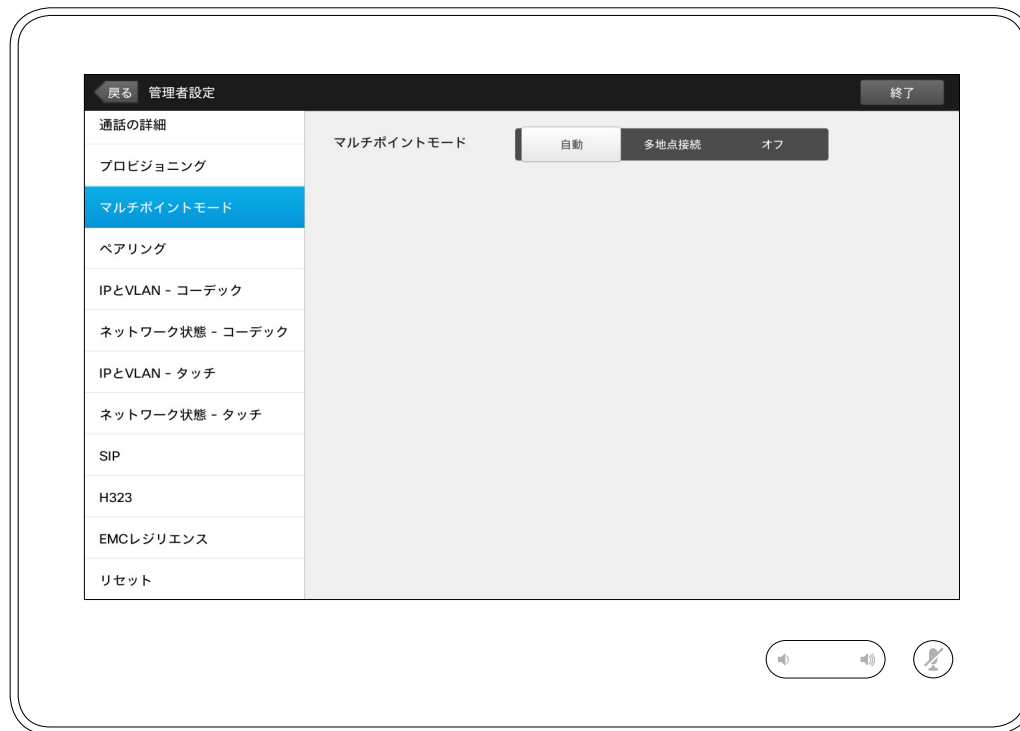
設定

[管理者設定 (Administrator Settings)] - [マルチポイントモード (Multipoint Mode)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



マルチポイントについて

ビデオ会議には、MultiWay と MultiSite の 2 つの基本的なモードがあります。

- MultiWay を有効にするには、MultiWay アドレスをあらかじめ入力しておく必要があります。
- MultiWay アドレスが指定され、MultiWay が選択されている場合、ビデオ会議には MultiWay が常に使用されます。
- MultiWay アドレスが指定されている一方で MultiSite が選択されている場合は、MultiSite が使用されます。
- [自動 (Auto)] に設定すると、MultiWay アドレスが指定されている場合は MultiWay が使用されます。それ以外の場合は、MultiSite が使用されます。
- [オフ (Off)] に設定すると、ビデオ会議を実施できなくなります。
- MultiSite 機能を使用するには、MultiSite オプションが表示されている必要があります。

注意: 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



[管理者設定 (Administrator Settings)] - [ペアリング (Pairing)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



ペアリングについて

このウィンドウには、関連するペアリング情報が表示されます。



設定

[管理者設定 (Administrator Settings)] - [IPとVLAN - コーデック (IP & VLAN, Codec)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



IP 設定について

IPv4 または IPv6 を使用するかどうか、また静的 IP アドレスまたは DHCP を使用するかどうかを指定することができます。

[静的 (Static)] に設定した場合は、適切なアドレスを設定する必要があります。

これらの設定をデフォルト値から変更する場合は、[詳細 (Advanced)] (非表示) をタップします。

注意: 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



設定

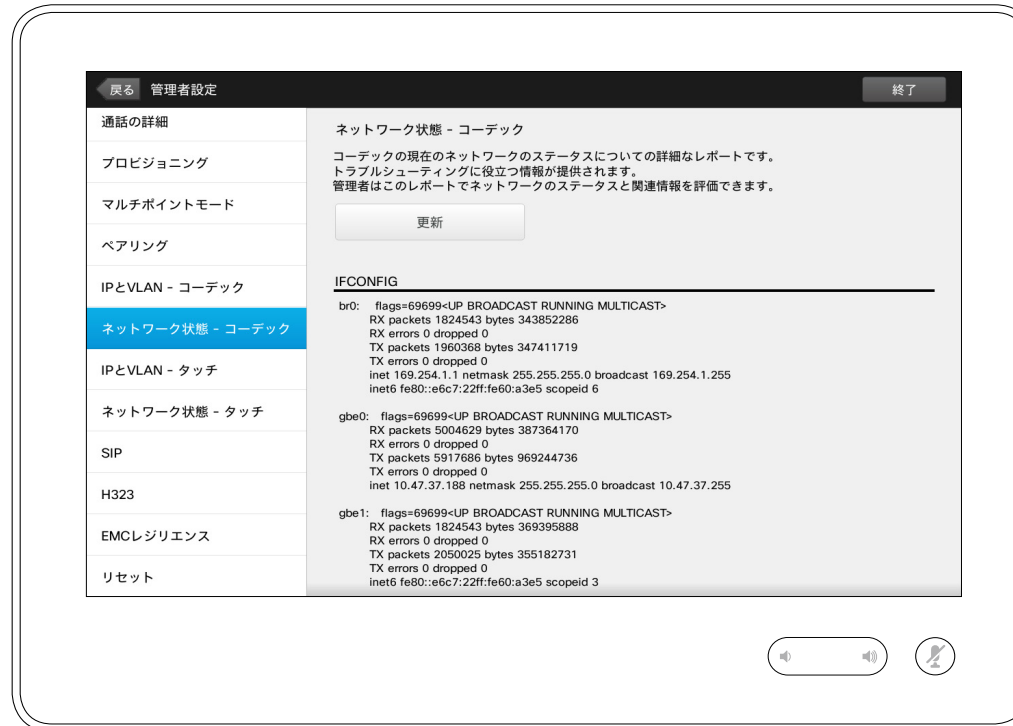
[管理者設定 (Administrator Settings)] - [ネットワーク状態 - コーデック (Network Status Codec)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、

ご注意ください。



ネットワーク状態について

これは、万一システムの不具合が発生した場合に、システムのコーデックの現在のネットワーク状態についての情報がビデオ サポート チームに提供されるように設計されています。



設定

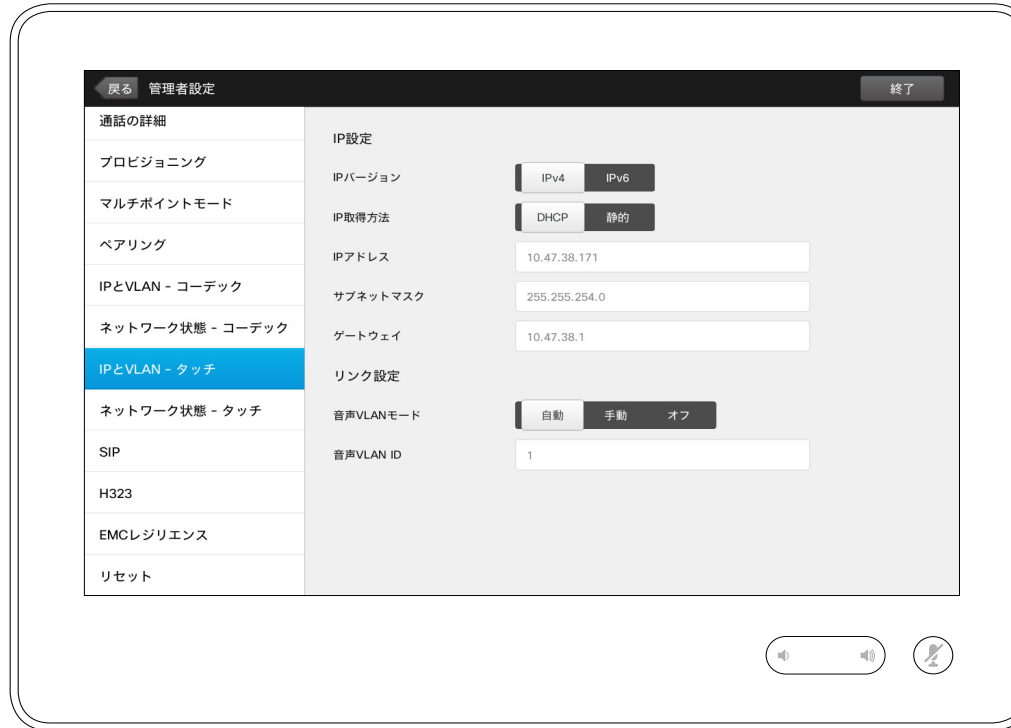
[管理者設定 (Administrator Settings)] - [IPとVLAN - タッチ (IP & VLAN, Touch)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、

ご注意ください。



IP 設定について

IPv4 または IPv6 を使用するかどうか、また静的 IP アドレスまたは DHCP を使用するかどうかを指定することができます。

[静的 (Static)] に設定した場合は、適切なアドレスを設定する必要があります。

注意: 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



設定

[管理者設定 (Administrator Settings)] - [ネットワーク状態 - タッチ (Network Status Touch)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、

ご注意ください。



ネットワーク状態について

これは、万一システムの不具合が発生した場合に、タッチ コントローラの現在のネットワーク状態についての情報がビデオ サポート チームに提供されるように設計されています。



[管理者設定 (Administrator Settings)] - [SIP]

[管理者設定 (Administrator Settings)]を終了するには、[戻る (Back)]をタップします。

[設定 (Settings)]を終了するには、[終了 (Exit)]をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

戻る 管理者設定		終了
通話の詳細	URI	7037188@itvm.tandberg.com
プロビジョニング	デフォルトトランスポート	TCP UDP TLS 自動
マルチポイントモード	プロキシタイプ	- Standard +
ベアリング	プロキシアドレス	vcs-1.qa.rd.tandberg.com
IPとVLAN - コーデック	ログイン名	
ネットワーク状態 - コーデック	パスワード	●●●
IPとVLAN - タッチ		
ネットワーク状態 - タッチ		
SIP		
H323		
EMCLレジリエンス		
リセット		

SIP 設定について

このページを使用して、SIP を設定します。

注意: 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



[管理者設定 (Administrator Settings)] - [H323]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。

設定項目	値
通話の詳細	H323番号: 5037188
プロビジョニング	H323 ID: 5037188@itvm.tandberg.com
マルチポイントモード	ゲートキーパーアドレス: vcs-1.qa.rd.tandberg.com
ベアリング	認証モード: <input type="radio"/> オフ <input checked="" type="radio"/> オン
IPとVLAN - コーデック	ログイン名: <input type="text"/>
ネットワーク状態 - コーデック	パスワード: <input type="text"/>
IPとVLAN - タッチ	
ネットワーク状態 - タッチ	
SIP	
H323	
EMCLレジリエンス	
リセット	

H323 設定について

このページを使用して、H323 を設定します。

注意: 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



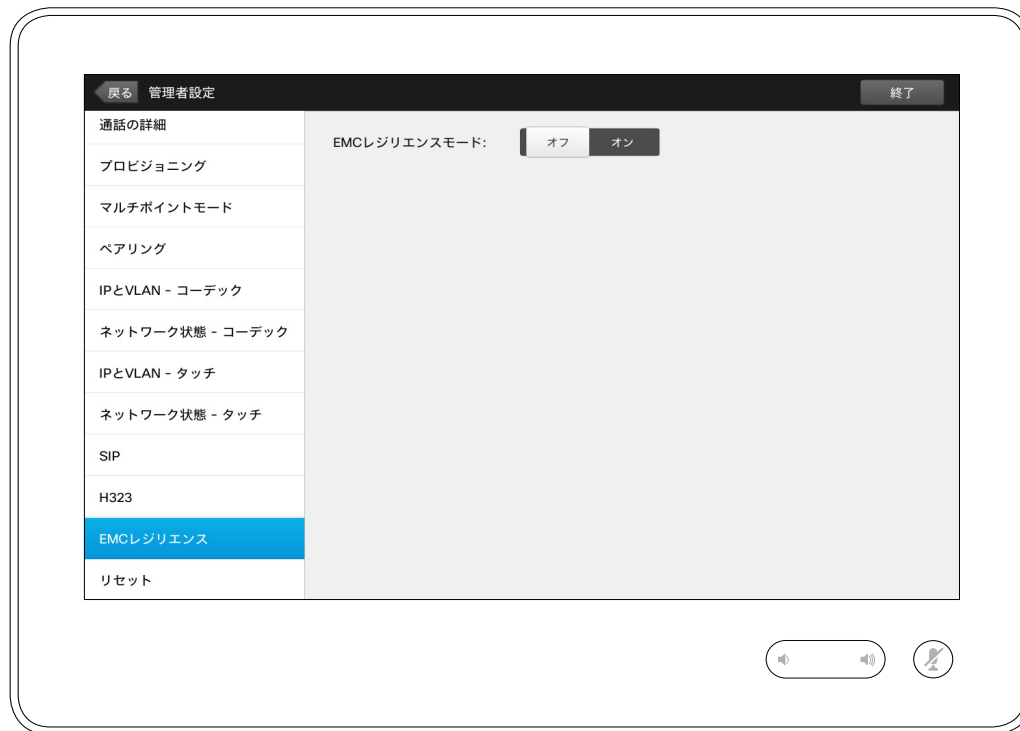
設定

[管理者設定 (Administrator Settings)] - [EMCレジリエンスモード (EMC Resilience Mode)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



EMC レジリエンスについて

大量の電磁雑音が存在する環境でタッチ コントローラを使用する場合、誰もタッチ コントローラをタップしていないにも関わらず、誰かがタップしたかのような疑似信号が出現することがあります。

この状況に対処するには、EMC レジリエンス モードをオンに設定することができます。次に、システムがタップを認識できるように、タップよりも少し長目に押します。これで、スプリアス信号が出現なくなります。

注意: 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



設定

[管理者設定 (Administrator Settings)] - [初期設定へのリセット (Factory Reset)]

[管理者設定 (Administrator Settings)] を終了するには、[戻る (Back)] をタップします。

[設定 (Settings)] を終了するには、[終了 (Exit)] をタップします。

変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



初期設定へのリセットについて

ビデオ システムの [初期設定へのリセット (Factory Reset)] を実行できません。すべての設定、通話履歴、および連絡先のローカル リスト (お気に入りと発信履歴) を失うことに注意してください。インストールされているリリースキーとオプションは維持されます。

注意: 変更を元に戻してメニューを終了するキャンセル機能はありませんので、ご注意ください。



©2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2015年2月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107 - 6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先